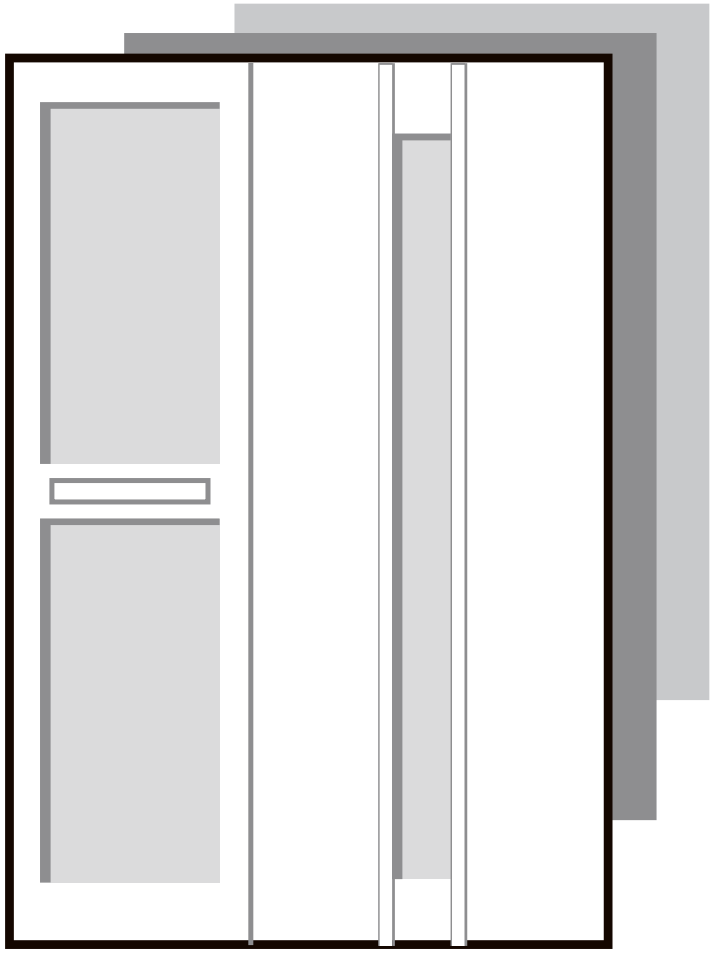
LIXIL

工事店さま用

リフォームドア
リシェント

取付け説明書



取付けにあたって

- ご使用前に、「取付け説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- この説明書に掲載の商品は、使用用途・場所などを限定するもの、専門施工を必要とするもの、定期点検を必要とするものがあります。販売店または専門施工店にご確認ください。
- 商品には安全にお使いいただくための本体表示ラベルが張ってあるものがあります。ご使用の際はご確認の上、正しくお使いください。

目　次

■組立て・取付けされる方へのお願い…… 1 ～ 3
■取付け工程モデル…… 4
■納まり参考図…… 5 ～ 11
■製品の組立て…… 12 ～ 15
■製品の取付け…… 16 ～ 54

組立て・取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

⚠注 意…組立て・取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

⚠注　意

●製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になりますので、下記事項をお守りください。
・躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。
・躯体に取付ける際は、枠取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法20mmの時、1.2N・m（12kgf・cm）以上にしてください。
・既設枠に取付ける際は、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上（スチール枠の場合、1.2mm以上）であることを確認してください。

●丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。締付けがゆるいとドア本体の脱落の原因となります。（締付けトルクは、2.5±0.5N・m {25±5kgf・cm} 以上）

●ドア本体に錠セットを取付けて、枠に吊込んだ後はラッチボルトを掛けて固定してください。錠セットを取付ける前に枠に吊込むとドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。

●建付け調整のとき、丁番取付けねじを全部外さないでください。ドア本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。

●親子・両開き納まりで下枠とポーチ面の立上がりが大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル［下枠用Lアングル］（別途有償品）を取付けてください。下枠のツボ部分が破損し、思わぬケガをするおそれがあります。

●下枠段差緩和材の取付けは注意事項をお守りください。両面テープの接着力が低下し、下枠段差緩和材が外れ、思わぬケガをするおそれがあります。

●インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落の原因になります。

●半外枠補強プレートを既設枠に固定する際に下穴をあける場合は、φ2.5以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落の原因となります。

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

■組立て上のお願い

●必ず指定のねじで組立てしてください。

●枠の組立てねじは2.5±0.5N・m {25±5kgf・cm} の締め付けトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。

■取付け上のお願い　躯体固定

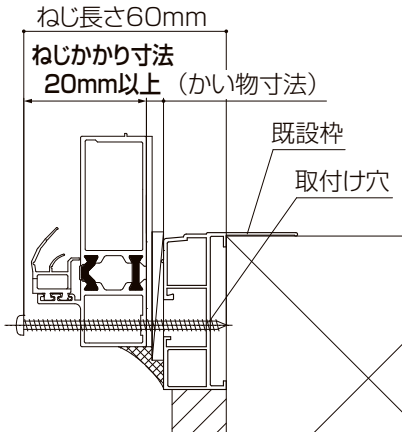
●必ず指定の取付けねじで固定してください。
●現場取付けに入る前に製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
●内外の額縁は現場の納まりに合わせて切詰めてください。
●親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。
●親子納まりで下枠とポーチ面の立上がりが大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため､必ず下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］(別途有償品) を取付けてください。

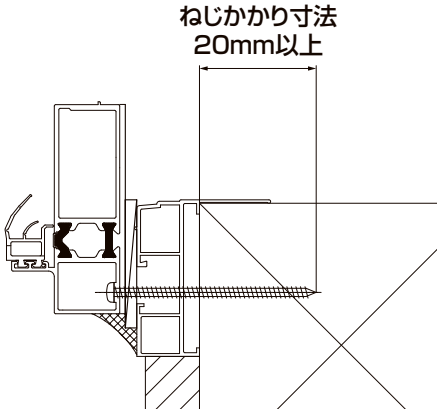
〔ねじかかり寸法の確認〕
躯体にねじ止めする前に、既設枠の取付け穴にねじを入れ、取付け穴からねじ頭までの長さが 20mm 以上であることを確認してください。

※ねじ長さ 60mm

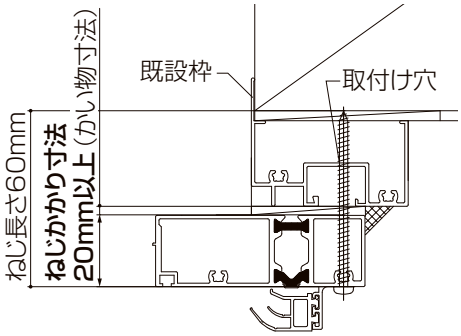
⚠注　意
●躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。製品強度の不足でドア本体･枠の脱落の原因になります。

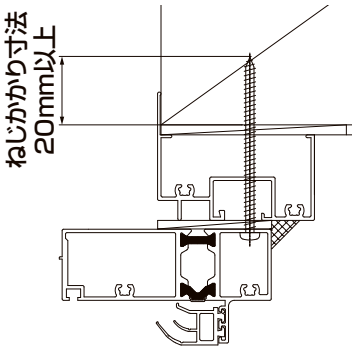
（縦枠の場合）





（上枠の場合）





〔取付ける柱のねじ込みトルクの確認〕
製品を取付ける前に取付ける柱に腐りがなく、枠の取付けねじのねじ込みトルクが 1.2N・m（12kgf・cm）以上であることを確認してください。

⚠注　意
●躯体に取付ける際は、枠取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法 20mm の時、1.2N・m（12kgf・cm）以上にしてください。製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

■取付け上のお願い　既設枠固定

●必ず指定の取付けねじで固定してください。
●現場取付けに入る前に製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
●内外の額縁は現場の納まりに合わせて切詰めてください。
●親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。
●親子納まりで下枠とポーチ面の立上がりが大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため､必ず下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］(別途有償品) を取付けてください。

〔対象商品〕

・旧トステム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズ
（ロンカラー等の汎用ドアは対象外）
・新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)の商品

〔既設枠アルミ厚さの確認〕

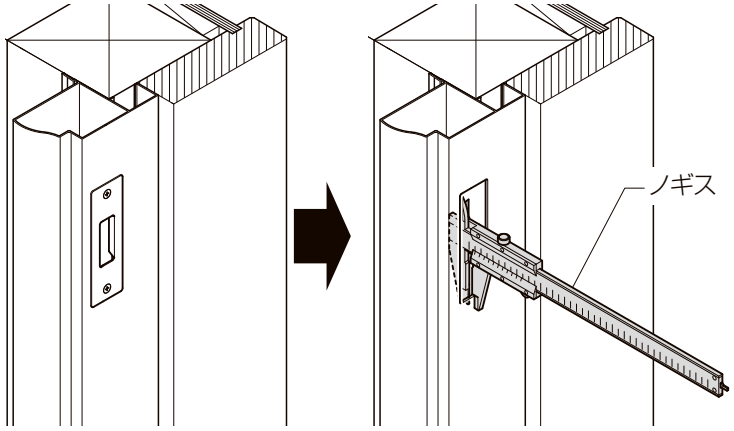
既設枠にねじ止めする前に既設枠から部品を取り外し、ノギスで新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが 1.4mm 以上（スチール枠の場合、1.2mm 以上）であることを確認してください。厚さが 1.4mm 以上であれば取付可能です。

※厚さが 1.4 ｍｍ未満の場合、既設枠に固定することができません。躯体に固定してください。

⚠注　意

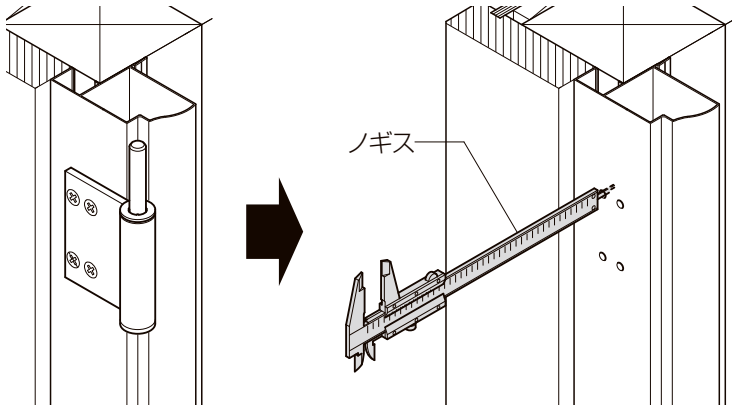
●既設枠に取付ける際は、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)であることを確認してください。
製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

（戸先側縦枠の場合）



ストライク等を外す　　既設枠アルミ厚さを測定

（吊元側縦枠の場合）



丁番等を外す　　既設枠アルミ厚さを測定

取付け工程モデル

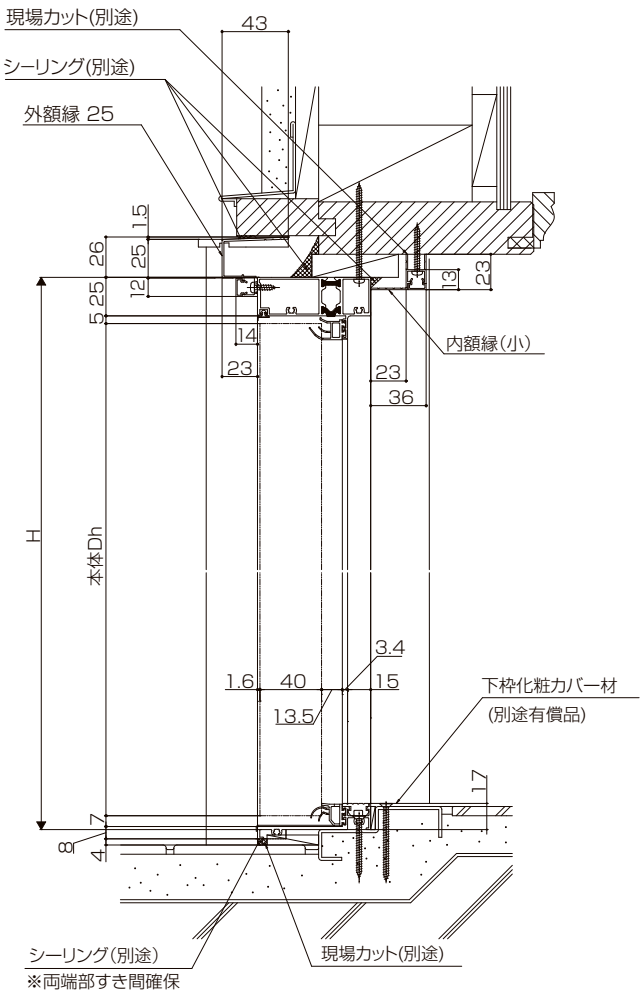
取付け工程	概　要
お施主さまとの打合わせ	●現場を確認し、既設玄関への取付可否を調査します。 ●使用する製品のタイプを決定・見積もりし、工事希望日を確認します。 ●製品を発注し、納入日を確認後工事日を決定します。
取付け前の作業	●既設枠開口に合わせ、枠を切詰める必要がある場合は、製品を切詰めます。 ●ガラス・ビード・別途有償品を手配します。
製品の組立て	●工事日までに製品を組立てます。
既設ドアの取外し	●製品基本寸法が現場に合うことを確認します。 ●工具を準備し、外枠だけ残して順に取外します。
新しい枠・ドアの取付け	●開口部の水平・垂直を正しく出し、新しい枠とドアを取付けます。 ●建付け調整をします。
枠外周部のシーリング処理	●雨仕舞いの処理のため、シーリングをします。
額縁の取付け	●納まりに合わせて、額縁を切詰めます。 ●納まりに合う調整溝に、額縁を取付けます。 ●溝フタを取付けます。
額縁外周部のシーリング処理	●雨仕舞いの処理のため、シーリングをします。
ガラス入れ・部品の取付け	●ガラスを入れ、ドアクローザなどを取付けます。
お引渡し	●お施主さまに製品を引渡します。

納まり参考図　躯体固定：内付枠

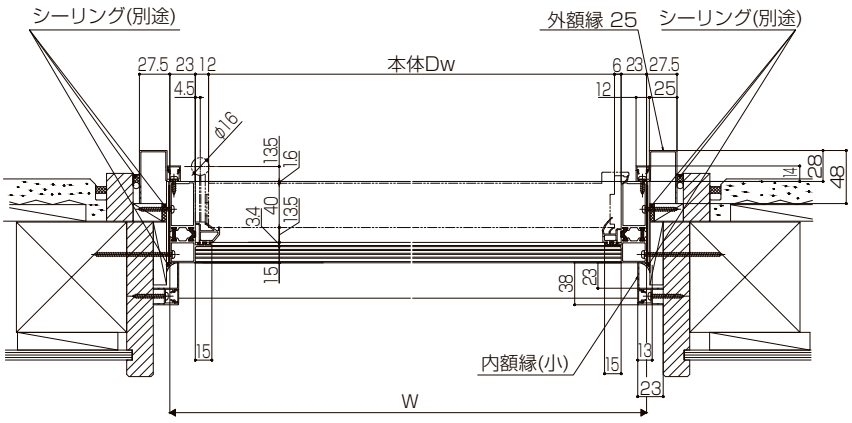
■木枠納まり

〔ランマなし〕

●本体部（縦断面図）

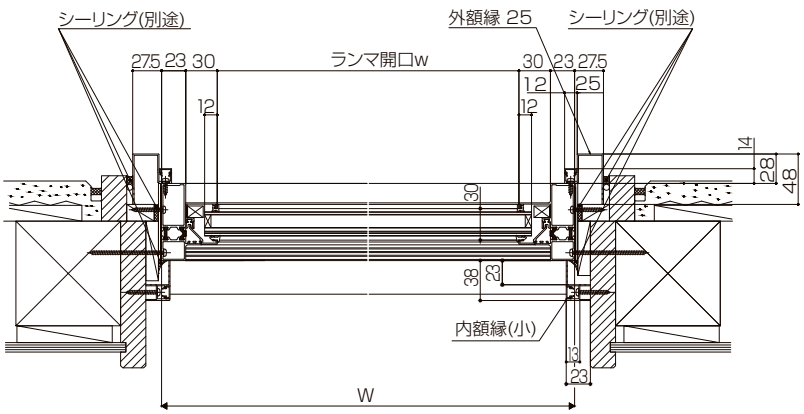


●片開き
（横断面図）



〔ランマ付き〕

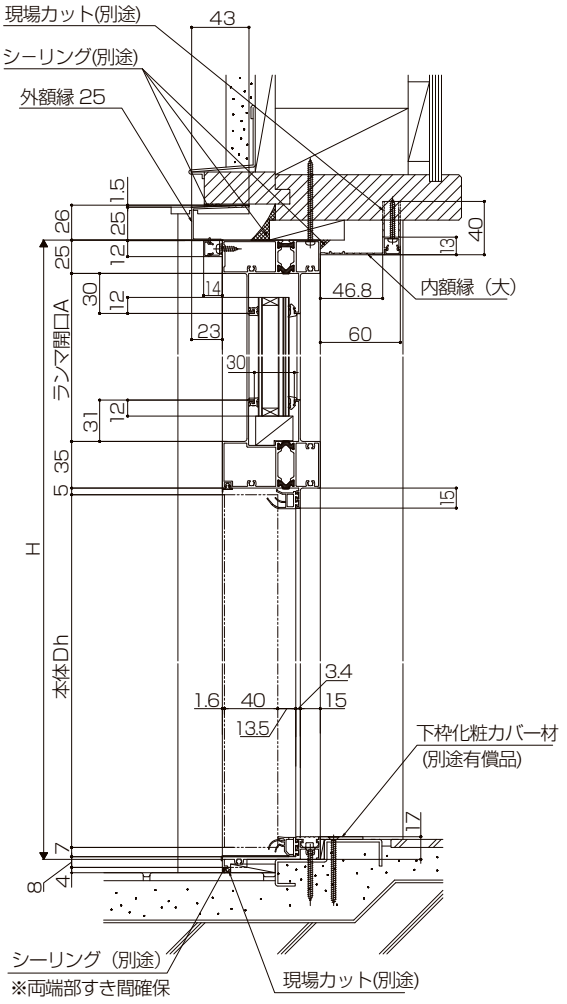
●ランマ部
（横断面図）



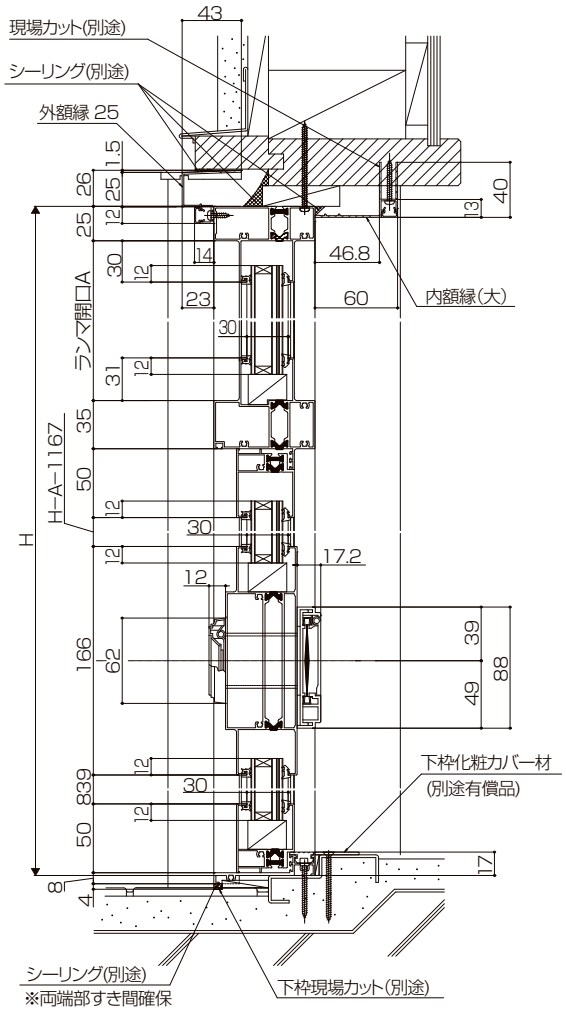
■木枠納まり

〔ランマ付き〕

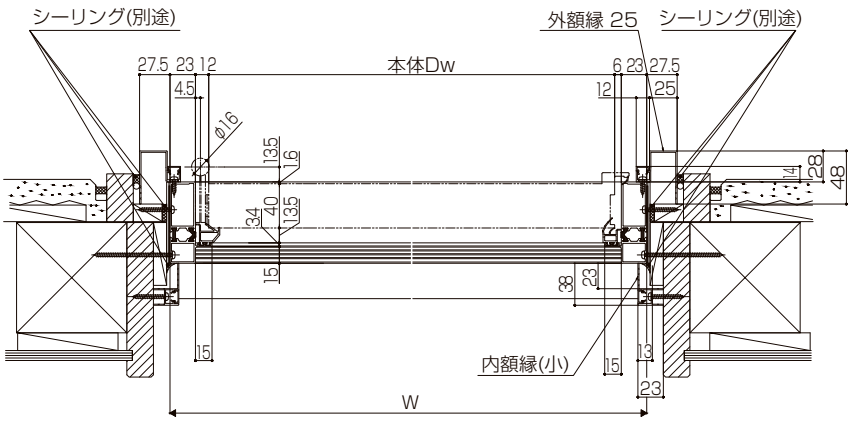
●本体部（縦断面図）



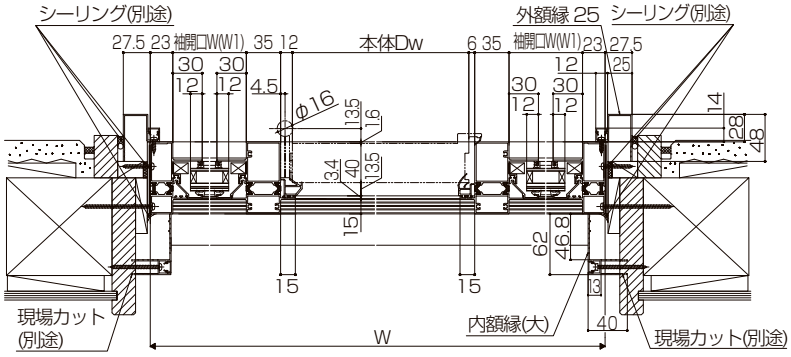
●袖部（縦断面図）



●片開き（横断面図）



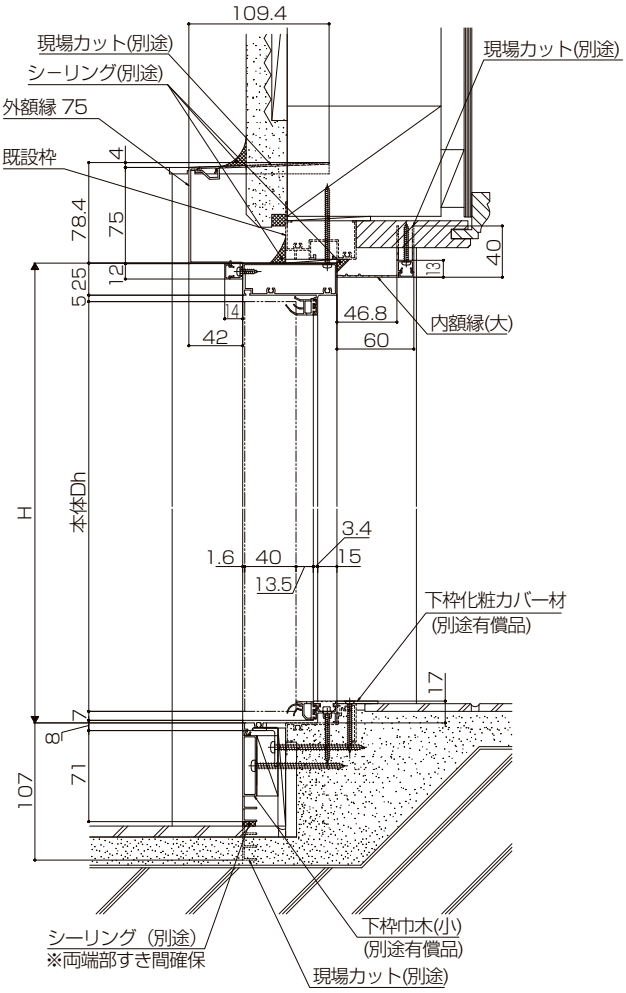
●両袖（横断面図）



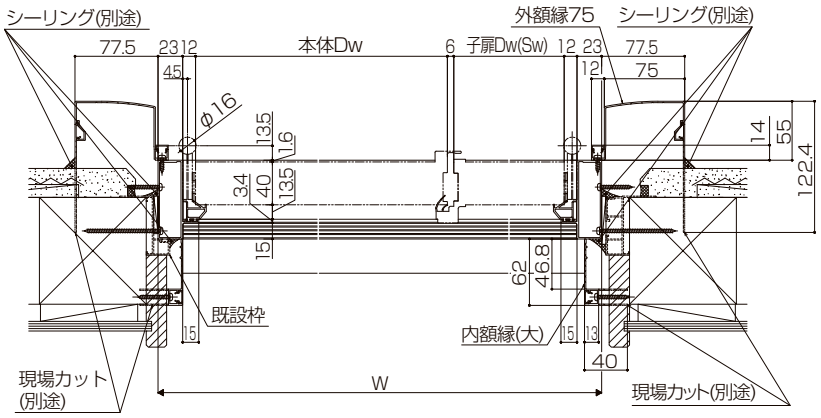
■アルミ枠納まり

〔ランマなし〕

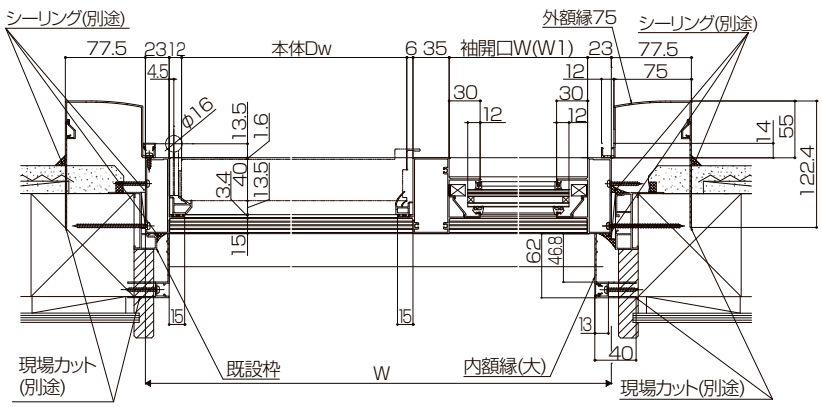
●本体部（縦断面図）



●親子
（横断面図）



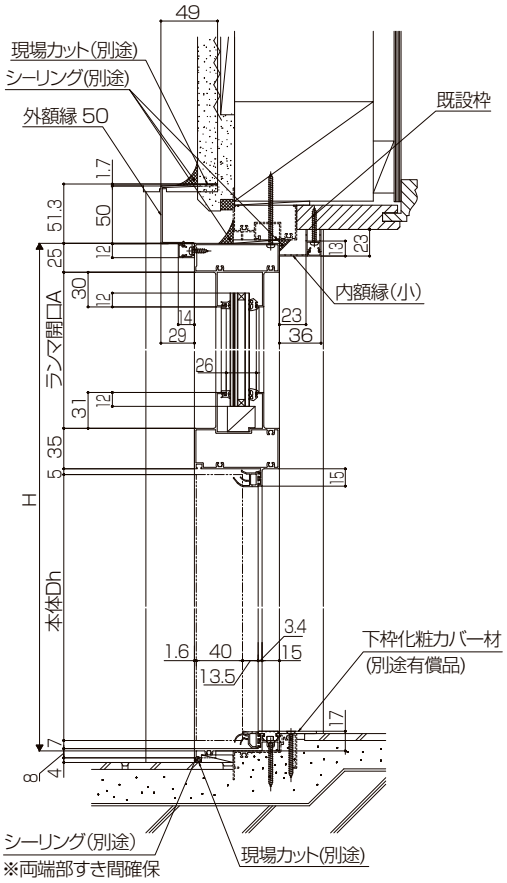
●片袖
（横断面図）



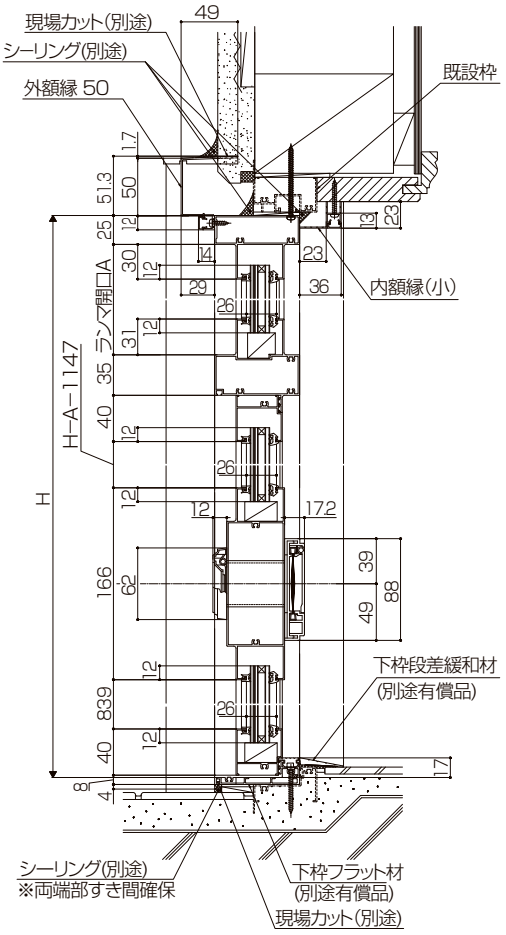
■アルミ枠納まり

〔ランマ付き〕

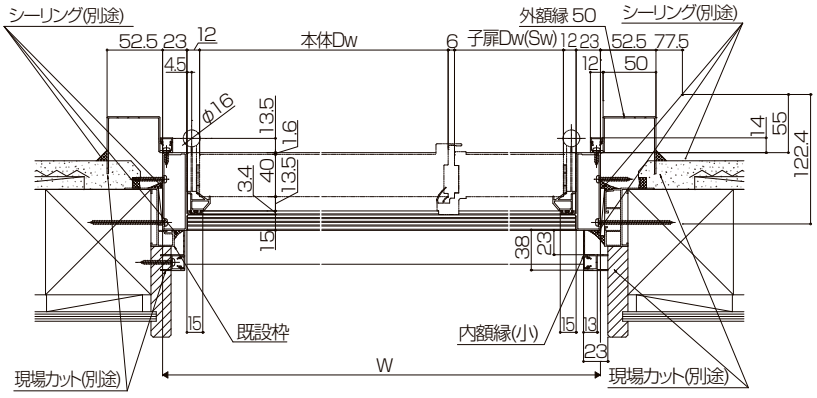
●本体部（縦断面図）



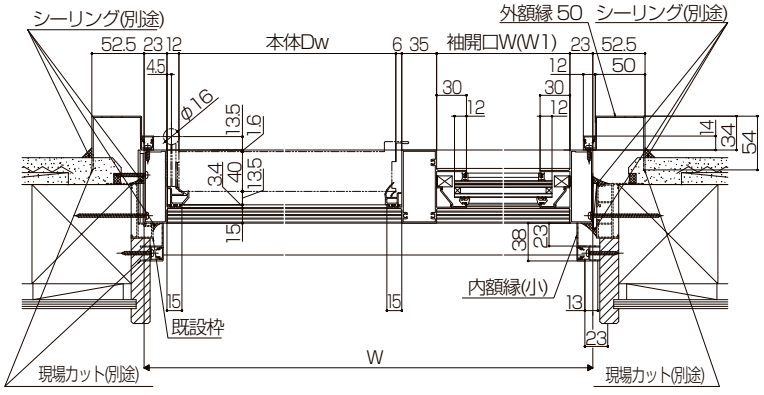
●袖部（縦断面図）



●親子（横断面図）

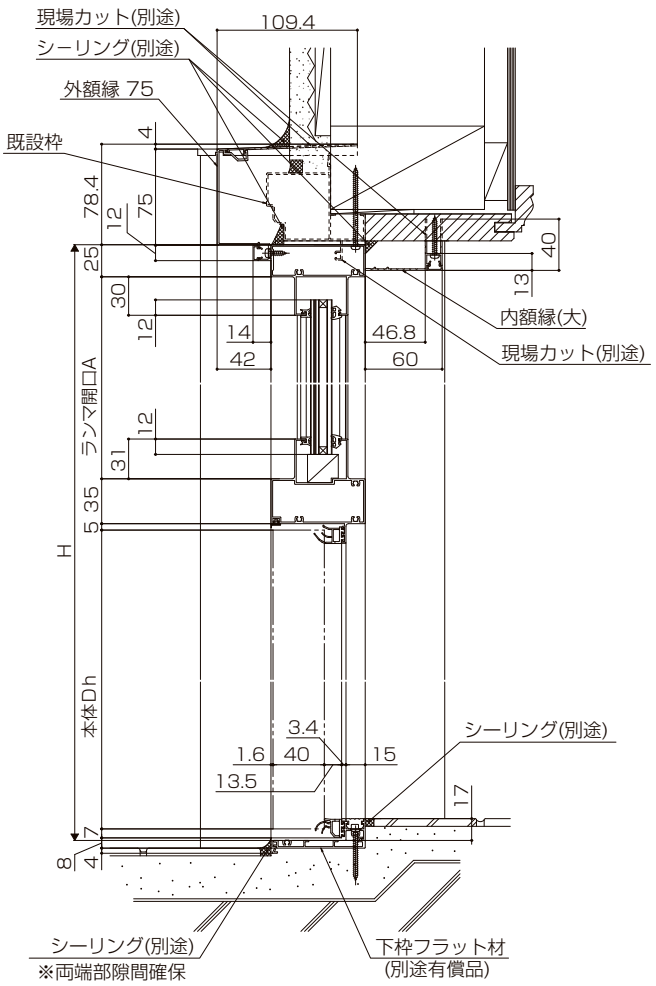


●片袖（横断面図）

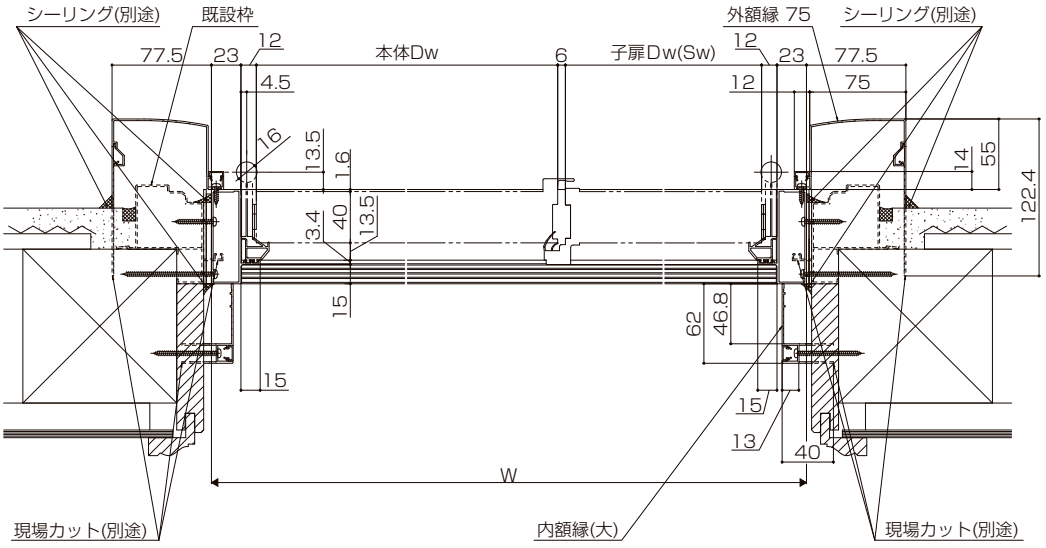


納まり参考図　躯体固定：半外付枠

●縦断面図

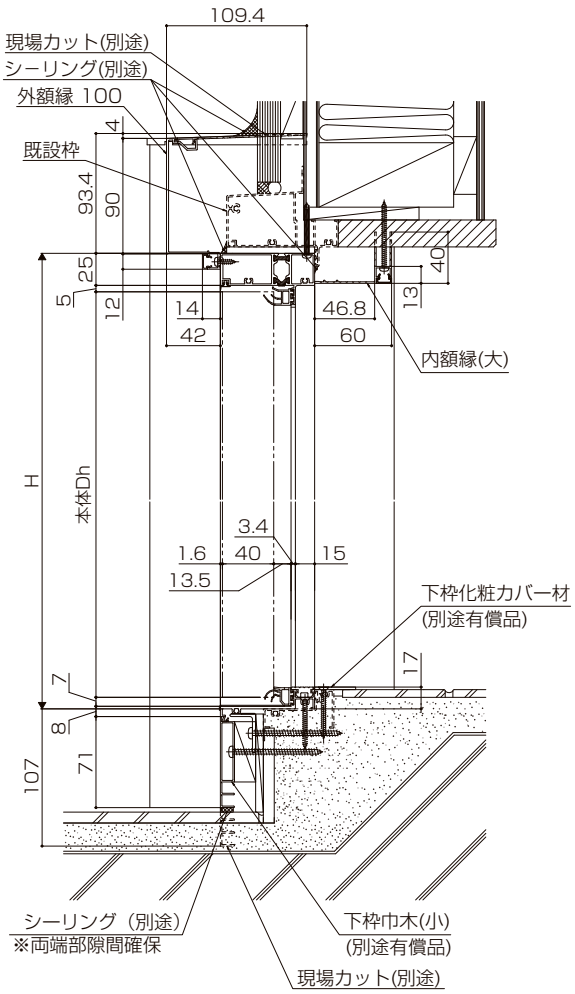


●横断面図

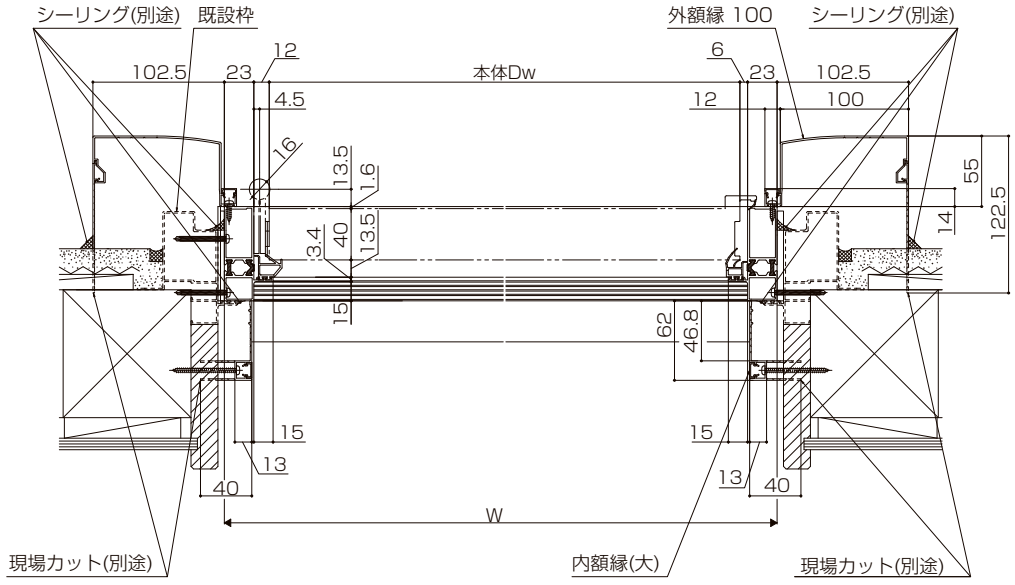


納まり参考図　既設枠固定：半外付枠（非断熱枠）

●縦断面図

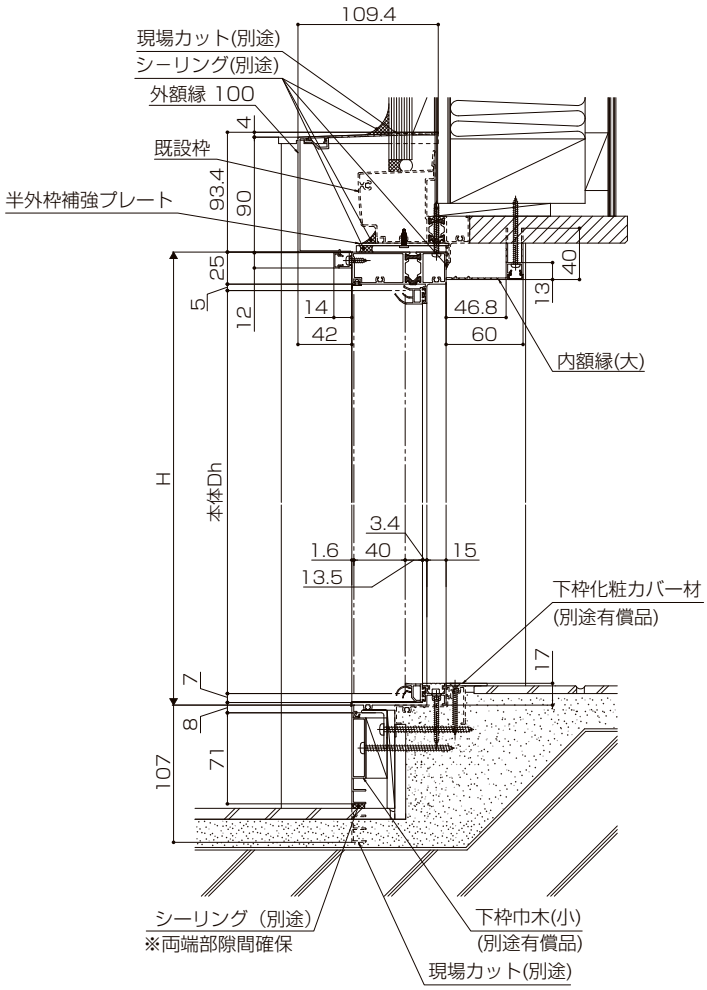


●横断面図

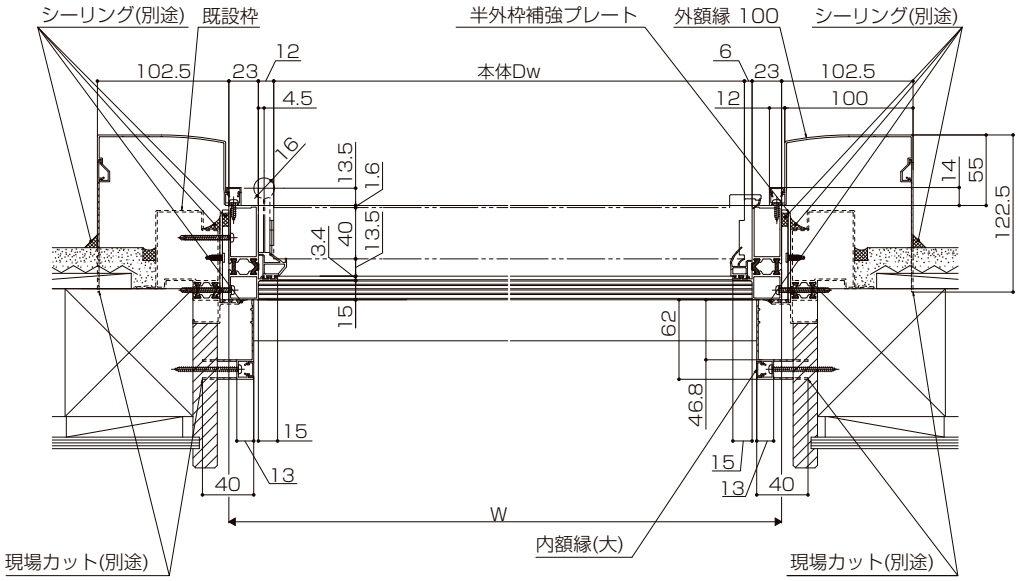


納まり参考図　既設枠固定：半外付枠（断熱枠）　半外枠補強プレート固定

●縦断面図



●横断面図



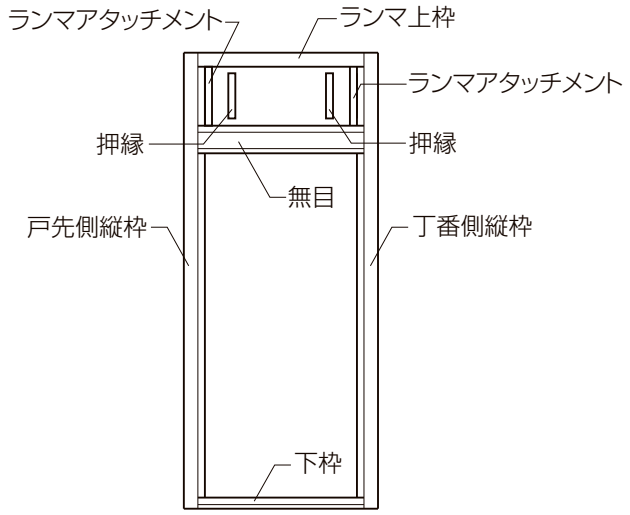
製品の組立て

■部材構成図（断熱仕様（k2・k3・k4）・アルミ仕様）

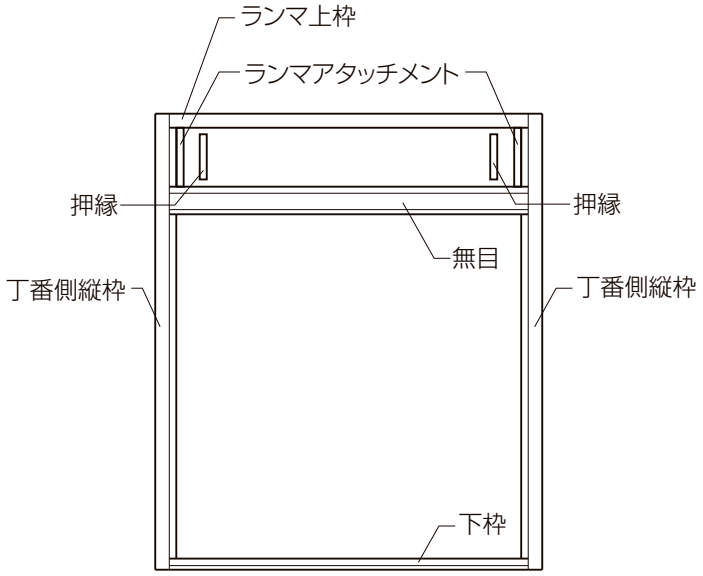
※図は外観右丁番の場合です。左丁番の場合、左右対称となります。

■片開き

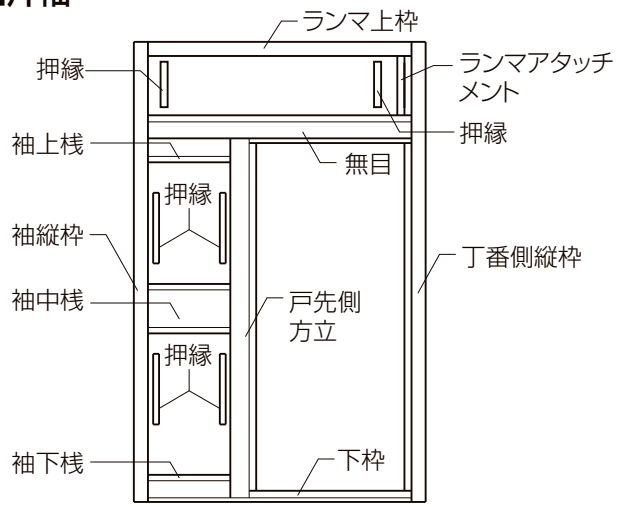
●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。



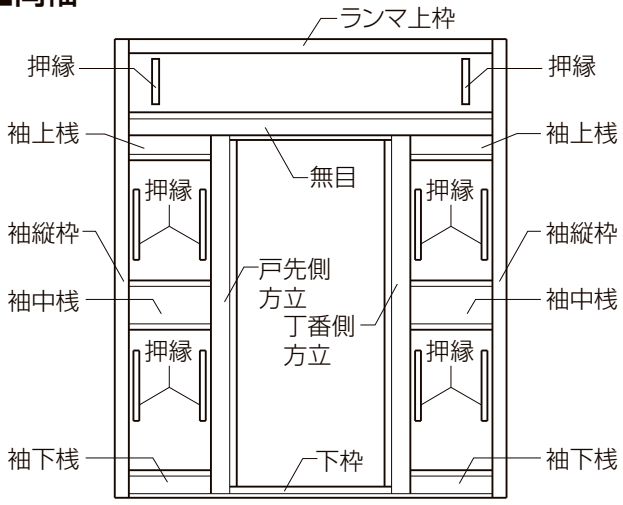
■親子・両開き



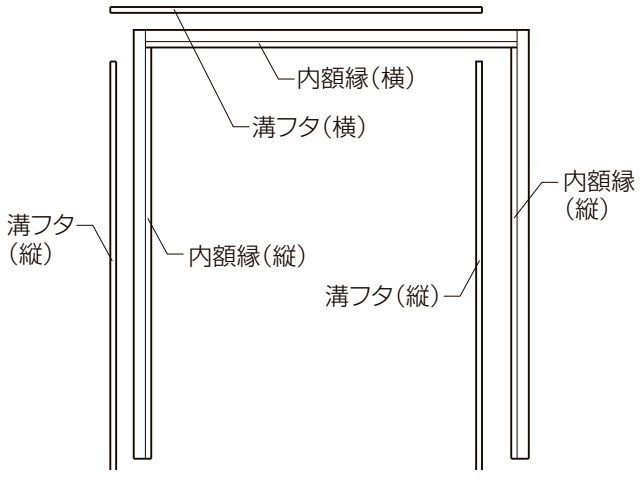
■片袖



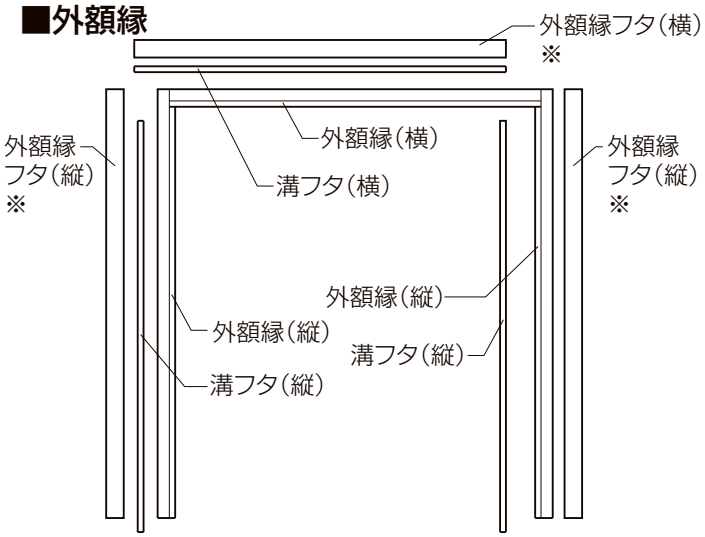
■両袖



■内額縁

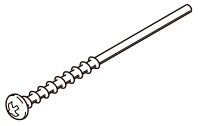


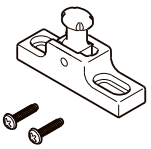
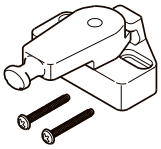
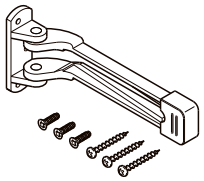
■外額縁



■組立てされる方へのお願い

■部品・ねじ一覧表

㋑	㋺
	
なべタッピンねじ φ４×55	プッシュボタン

別途手配品		
㋩	㋥	㋭
※枠に取付け	※子扉に取付け	※本体に取付け
		
ドアガード受け(枠用) (バインド小ねじM4×16)	ドアガード受け(子扉用) (バインド小ねじM4×25)	ドアガードアーム (①皿小ねじ M4 × 16) (②皿タッピンねじ１種φ４×25)

※ドア本体の裏板(金属)
にタップが切ってある
場合は①を使用
裏板が木片の場合には
②を使用

●必ず指定のねじで固定してください。
●枠の組立てねじは、2.5 ± 0.5N・m {25 ± 5kgf・cm} の締付けトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。
●ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル［下枠用 L アングル］（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P46 ～ P47）

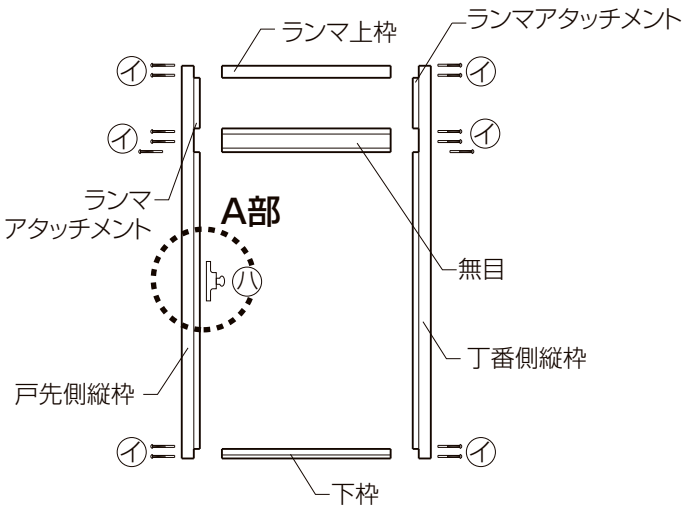
■組立て順序

1 枠の組立て

●図に従って枠を組立てます。
※図中㋑～㋩は、部品・ねじの種類を表します。

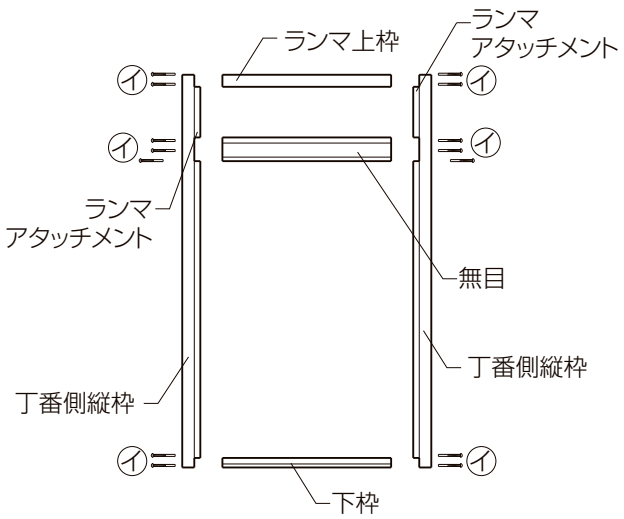
〔片開き〕

●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。



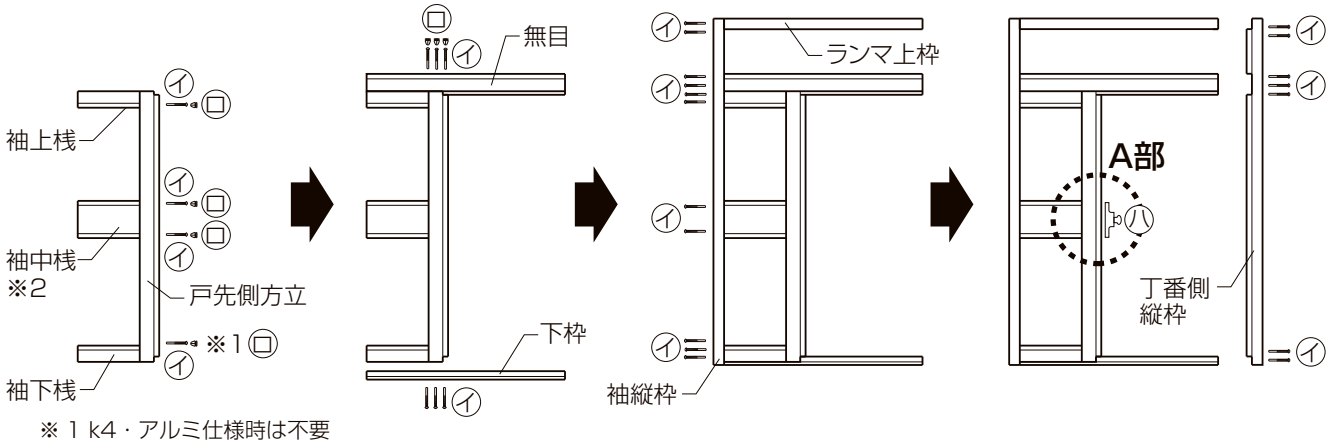
〔親子・両開き〕

●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。



〔片袖〕

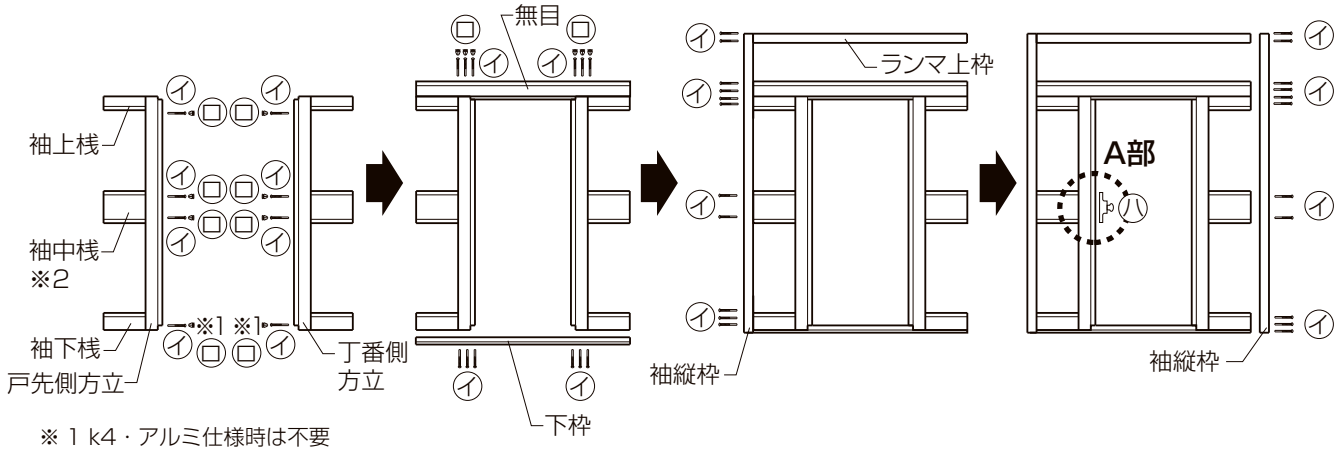
●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。



※ 1 k4・アルミ仕様時は不要
※ 2 袖中桟は中桟付タイプのみの取付けとなります。

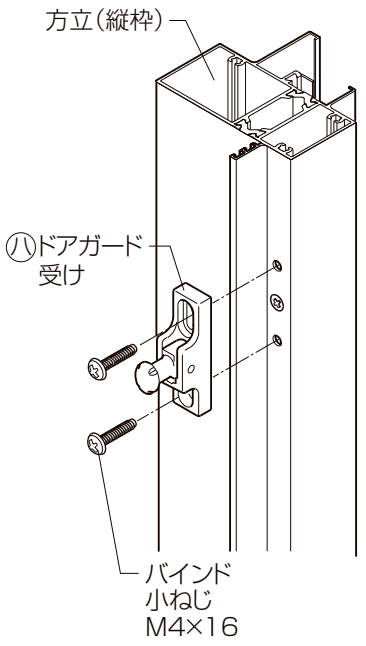
〔両袖〕

●ランマなしの場合、無目、押縁はありません。



※ 1 k4・アルミ仕様時は不要
※ 2 袖中桟は中桟付タイプのみの取付けとなります。

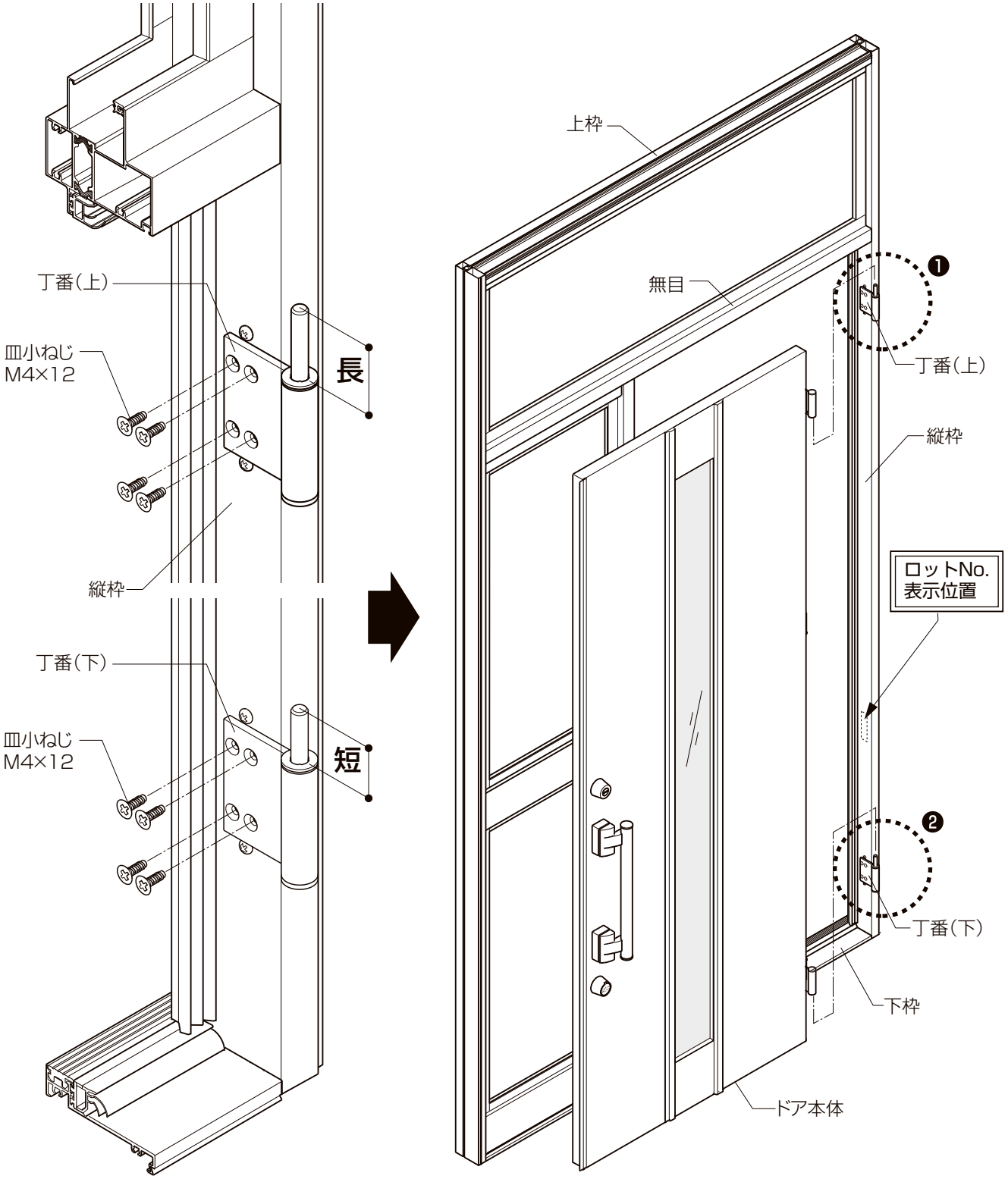
■A部詳細図



⚠注　意

●丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。
（締付けトルクは、2.5 ± 0.5N・m {25 ± 5kgf・cm}）
ドア本体の脱落の原因となります。

①丁番には上・下の区別があります。軸の長い丁番は上、軸の短い丁番は下になるように取付けます。
（取付けねじは丁番セットに同梱されています。）
※本体側は、皿小ねじ M4 × 20（長いほうのねじ）で取付けてください。
②ドア本体を❶・❷の順で吊込みます。



製品の取付け

⚠注　意

●製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になりますので、下記事項をお守りください。
・躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず 20mm 以上にしてください。
・躯体に取付ける際の枠取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法 20mm の時 1.2N・m（12kgf・cm）以上にしてください。
・既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが 1.4mm 以上（スチール枠の場合 1.2mm 以上）であることを確認してください。
●ドア本体に錠セットを取付けて、枠に吊込んだ後はラッチボルトを掛けて固定してください。
錠セットを取付ける前に枠に吊込むとドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。
●建付け調整のとき、丁番取付けねじを全部外さないでください。ドア本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。
●半外枠補強プレートを既設枠に固定する際に下穴をあける場合は、φ 2.5 以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落の原因となります。
●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

●現場取付けに入る前に、製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
●必ず指定の取付けねじで取付けてください。
●内外の額縁は、現場の納まりに合わせて切詰めてください。

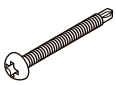
■取付けねじ一覧表

※取付けねじ本数は、取付け穴より多めに入っています。

〔同梱品〕

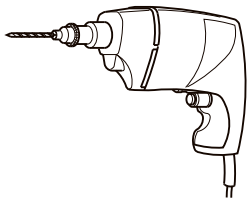
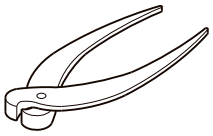
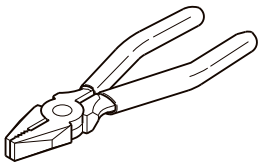
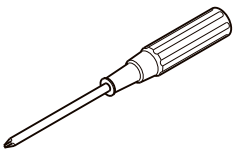
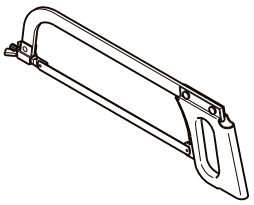
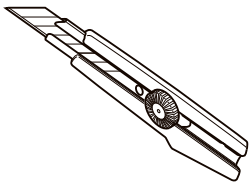
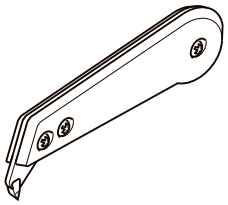
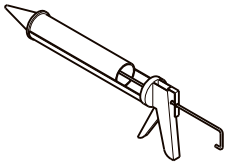
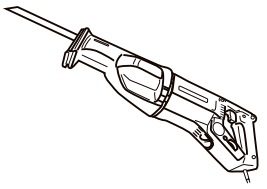
ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ
上枠・縦枠用	枠補強金具取付け	下枠取付け用	穴ふさぎ用	下枠取付け用
				※コンクリート用 
なべタッピンねじ φ４×60（1 種）	なべタッピンねじ φ４×30（1 種）	皿ドリルねじ φ４×40	プッシュボタン	皿セルフタッピン アンカーねじ φ４×32

〔別途有償品〕

ⓕ	ⓖ	ⓗ	ⓘ
既設アルミ枠取付け用	既設スチール枠取付け用	半外枠補強プレート取付	既設枠取付け用
			
なべドリルねじ（細目） φ４×40	なべドリルねじ（粗目） φ４×40	バーリングドリルねじ φ４×15	なべドリルねじ（粗目） φ４×40

※ⓗとⓘは半外枠補強プレートに同梱

■使用工具一覧表

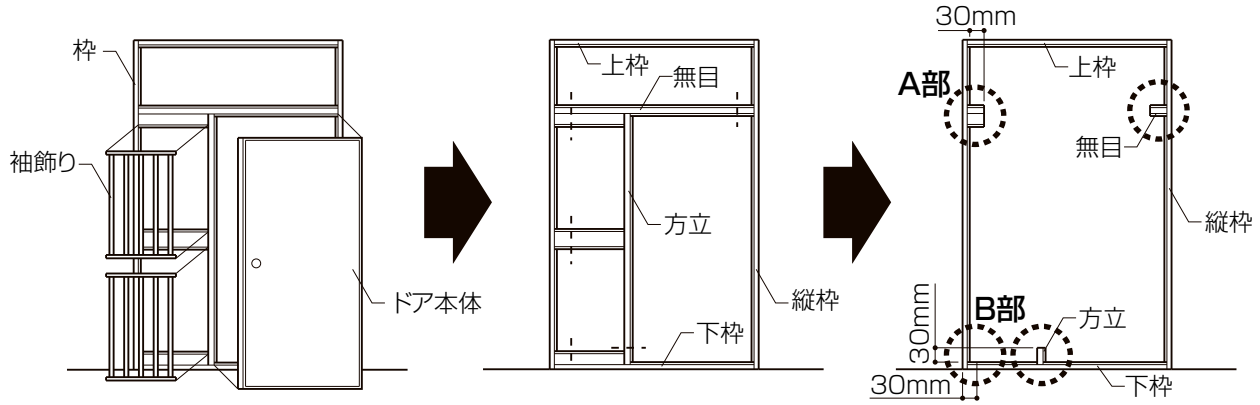
電動ドリル・電動ドライバー	くい切り	ペンチ	プラスドライバー	鉄ノコ
				
カッター	プラスチックカッター	コーキングガン	セーバーソー	※その他工具… グラインダー、 プライマー 丸のこなど。
				

■既設ドアの取外し

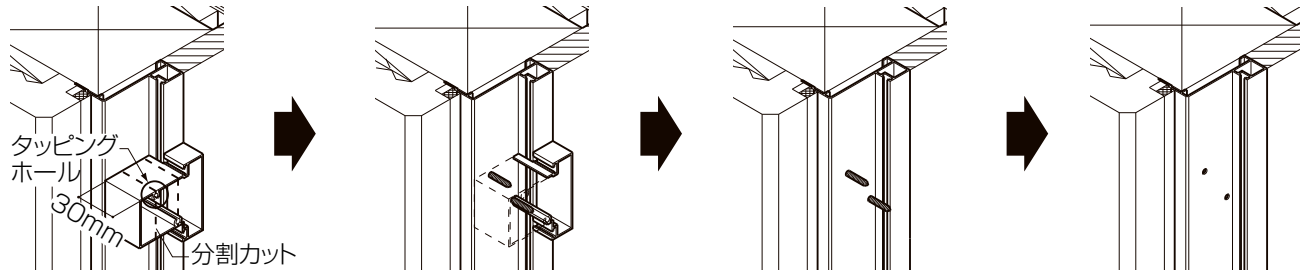
①既設のドア本体・袖飾り・子扉、およびガラスを取外します。
②無目・方立などの部材を切断して取除き、外枠（上枠・縦枠・下枠）のみ躯体に残します。
※下枠も取除く場合はモルタル処理をしてください。

〔既設枠がアルミ形材の場合〕

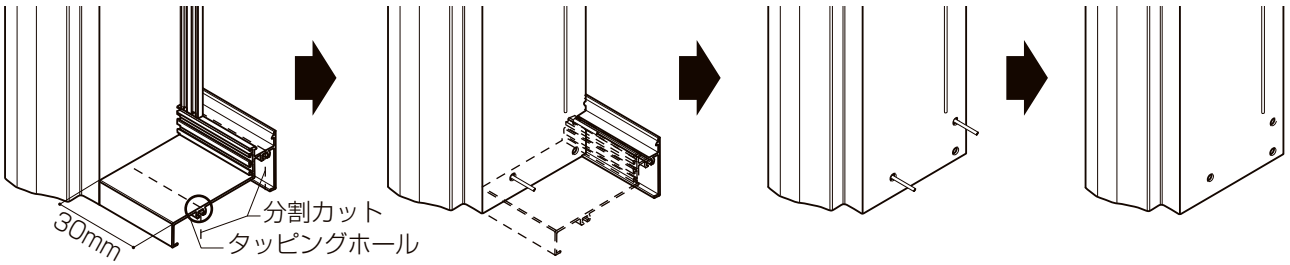
①無目・方立・下枠などは、縦枠・下枠などとの連結部から約 30 mm残して切取ります。
②切り残した部材は、タッピングホール付近を分割して取りやすい状態にして外します。
③外枠に残ったねじを、くい切りなどで切断します。
④取付けに支障のあるリブが縦枠・上枠にある場合は（下図）、室外側のリブの付け根にカッターなどにて強く押当ててキズをつけ、ペンチ等で折取ります。

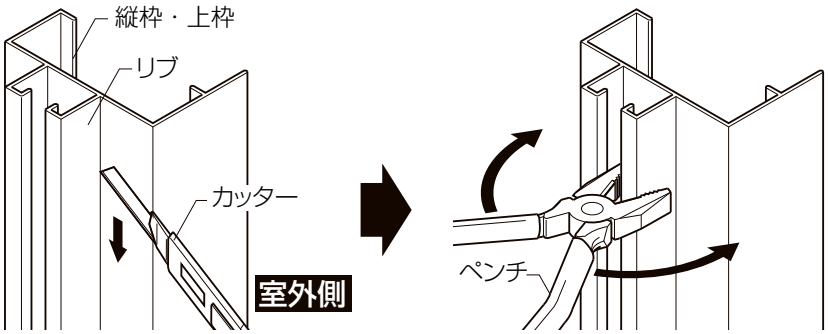


■A部詳細図



■B部詳細図

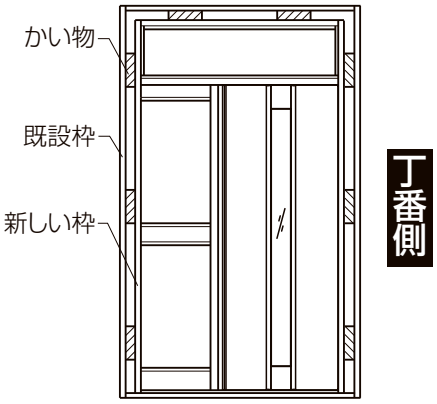




■新しい枠の取付け　躯体固定：内付枠

①かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

※断熱仕様の場合は既設枠と新しい枠（上枠・縦枠）を接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。



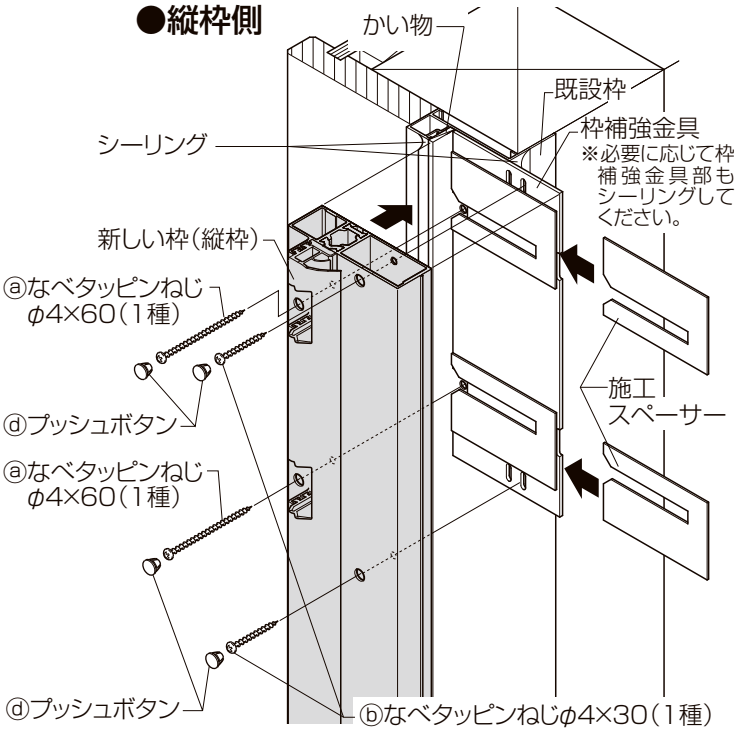
⚠注　意

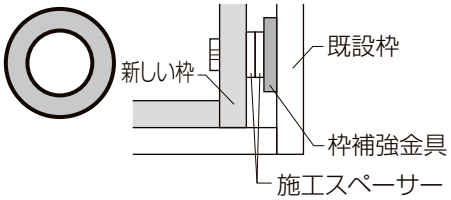
●躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

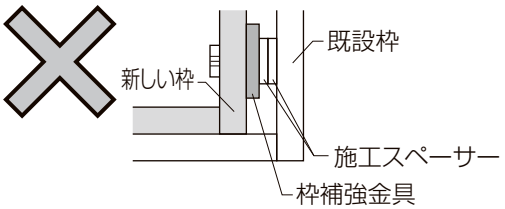
②取付け位置決定後、新しい枠（上枠・縦枠）の取付け穴より、既設枠および躯体にφ3の下穴をあけます。

③丁番側縦枠の室内側躯体取付けねじから順に指定のねじで取付けます。
その際、丁番部の躯体取付けねじで枠補強金具とともにⓐなべタッピンねじφ4×60（1種）で取付けます。
枠補強金具は、丁番側縦枠のみの取付けとなります。

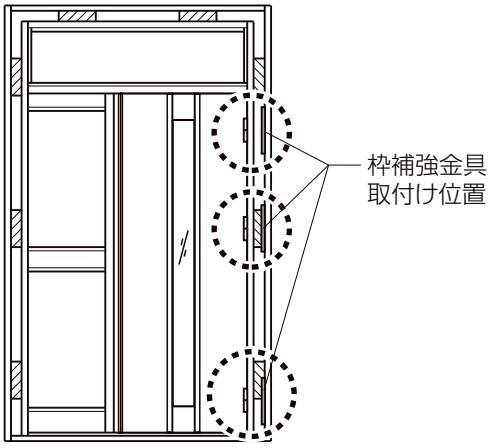
※断熱仕様の場合は必ず施工スペーサーを使用し、縦枠を枠補強金具に接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。







④縦枠の室外側の固定穴から、枠補強金具をⓑなべタッピンねじφ4×30（1種）で固定します。



◌ 内は3枚丁番の場合

■新しい枠の取付け　躯体固定：内付枠

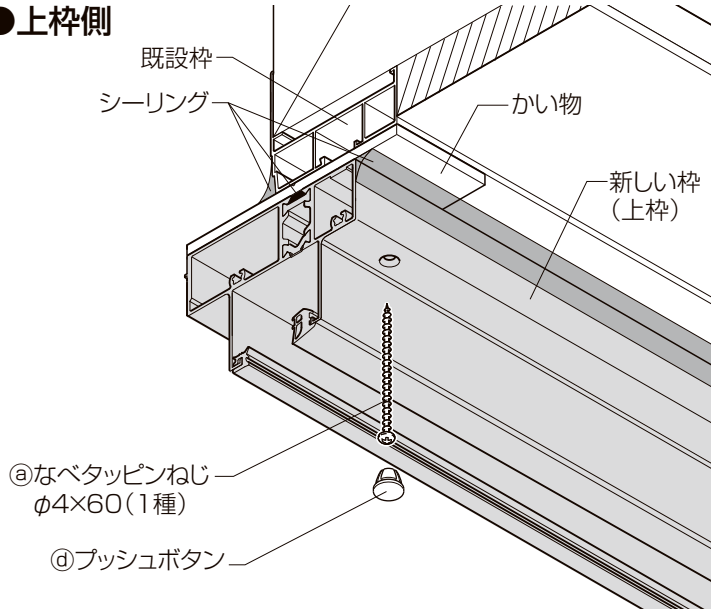
⑤プッシュボタンをはめ込みます。

⑥既設枠と新しい枠の接合部（室外側／三方）にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

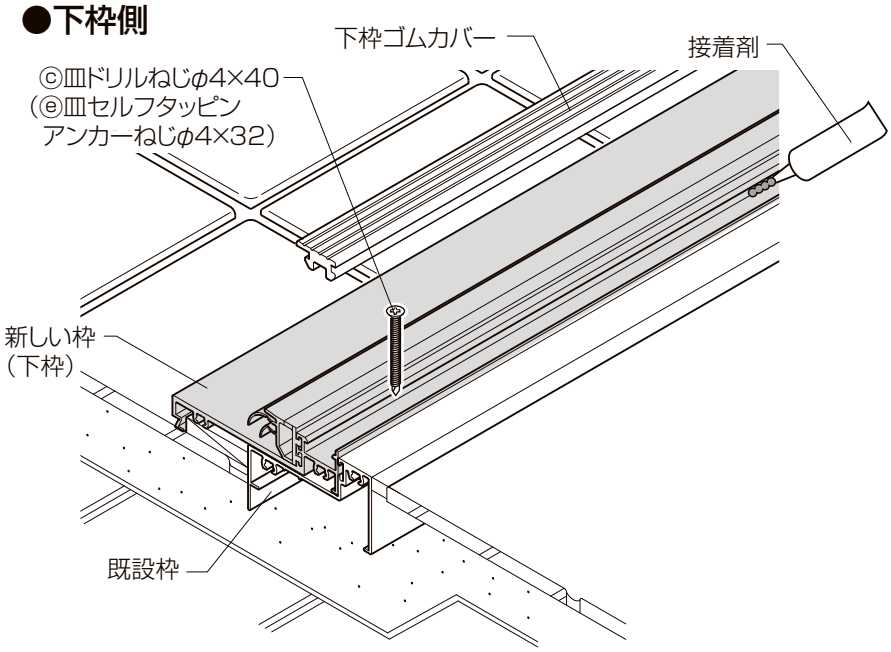
●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

●上枠側



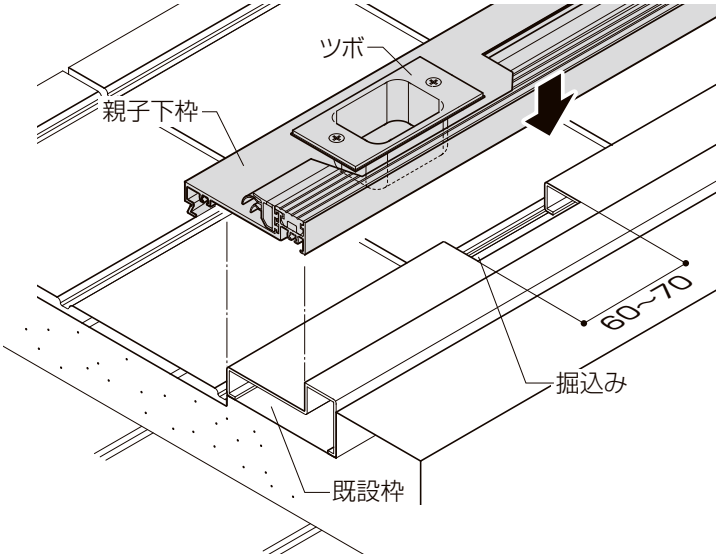
⑦本体･子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。
既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピンアンカーねじφ4×32で固定します。

●下枠側



〔親子の場合〕

●ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。

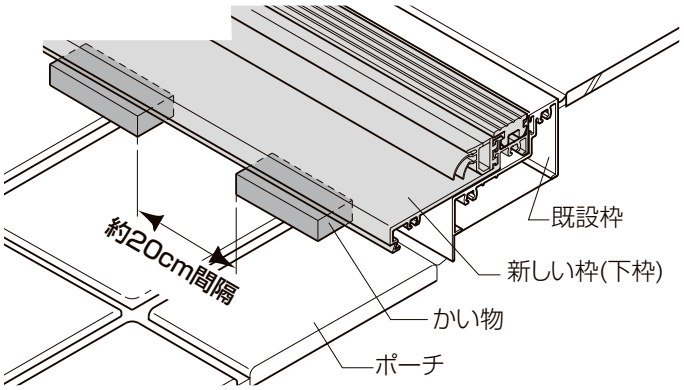


■新しい枠の取付け　躯体固定：内付枠

⑧下枠のたわみ防止のため、下枠と既設枠とのすき間にかい物を入れます。

お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



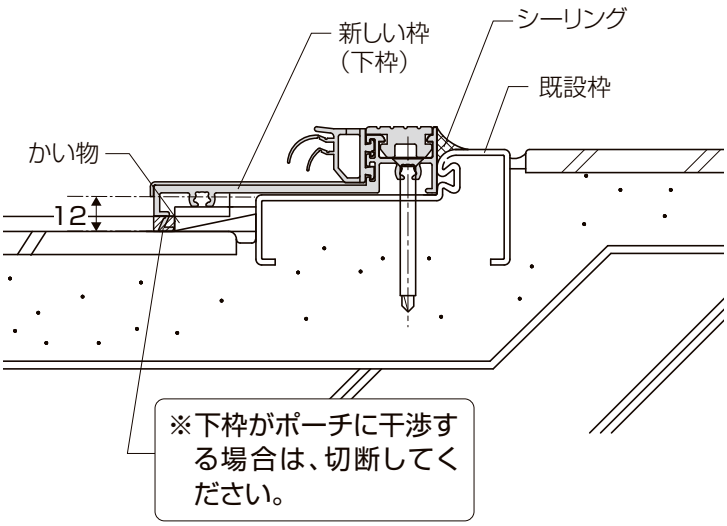
⑨既設枠と新しい下枠の接合面（室内側）にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

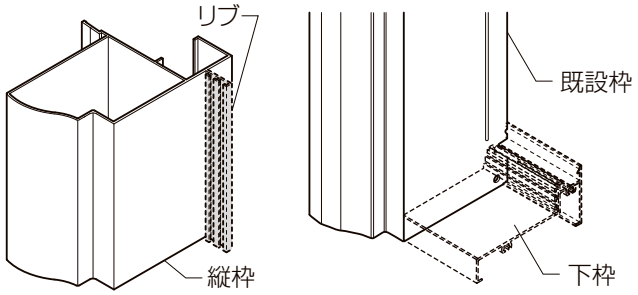
※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル［下枠用Lアングル］（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P46～P47）

※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



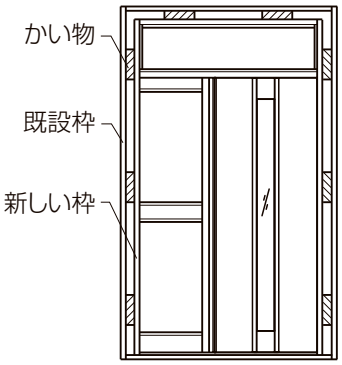
■新しい枠の取付け　躯体固定：半外付枠

①既設枠の上枠と縦枠の戸当りのリブを切り取り下枠を取り除きます。



②かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

※断熱仕様の場合は既設枠と新しい枠（上枠・縦枠）を接触させないください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。



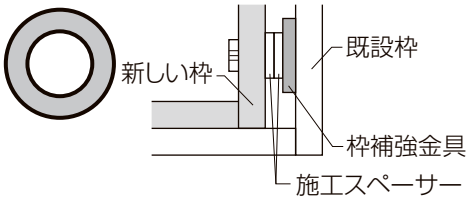
⚠注　意

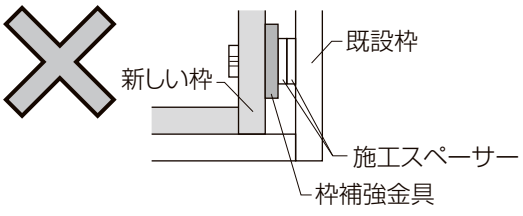
●躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

③取付け位置決定後、新しい枠（上枠・縦枠）の取付け穴より、既設枠にφ3の下穴をあけます。

④丁番側縦枠の室内側躯体取付けねじから順に指定のねじで取付けます。
その際、丁番部の躯体取付けねじで枠補強金具とともにⓐなべタッピンねじφ4×60（1種）で取付けます。枠補強金具は、丁番側縦枠のみの取付けとなります。

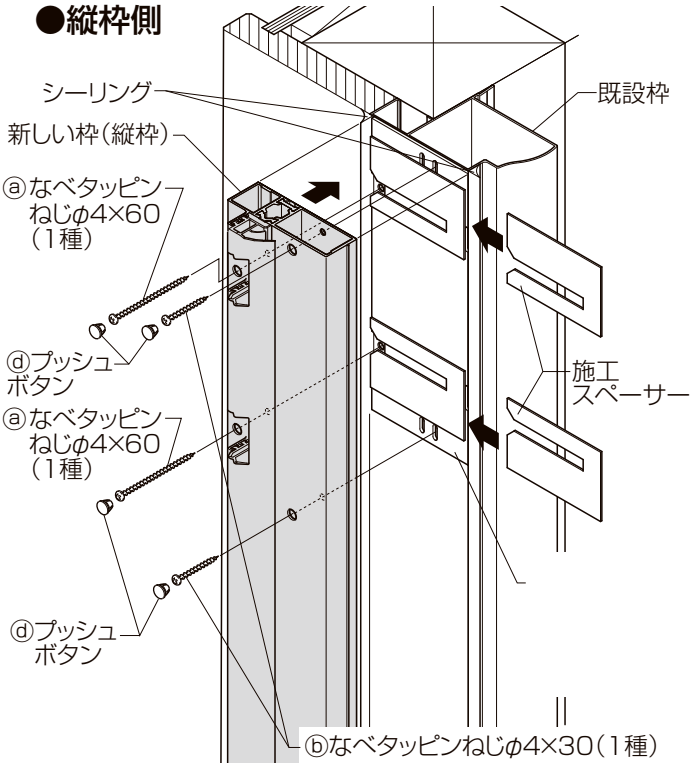
※断熱仕様の場合は必ず施工スペーサーを使用し、縦枠を枠補強金具に接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。

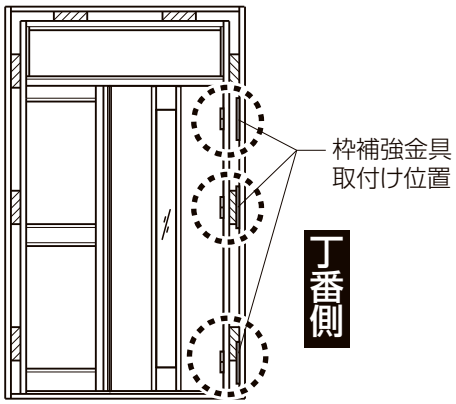




⑤縦枠の室外側の固定穴から、枠補強金具をⓑなべタッピンねじφ4×30（1種）で固定します。

●縦枠側





⁘ 内は3枚丁番の場合

■新しい枠の取付け　躯体固定：半外付枠

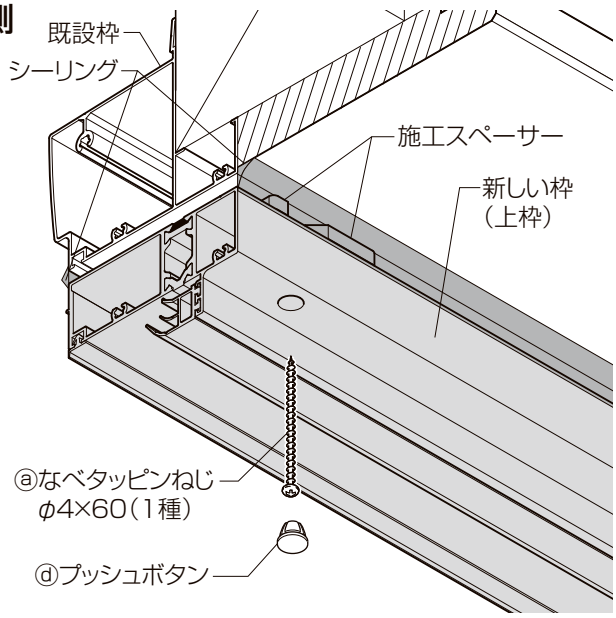
⑥プッシュボタンをはめ込みます。

⑦既設枠と新しい枠の接合部（室外側／三方）にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

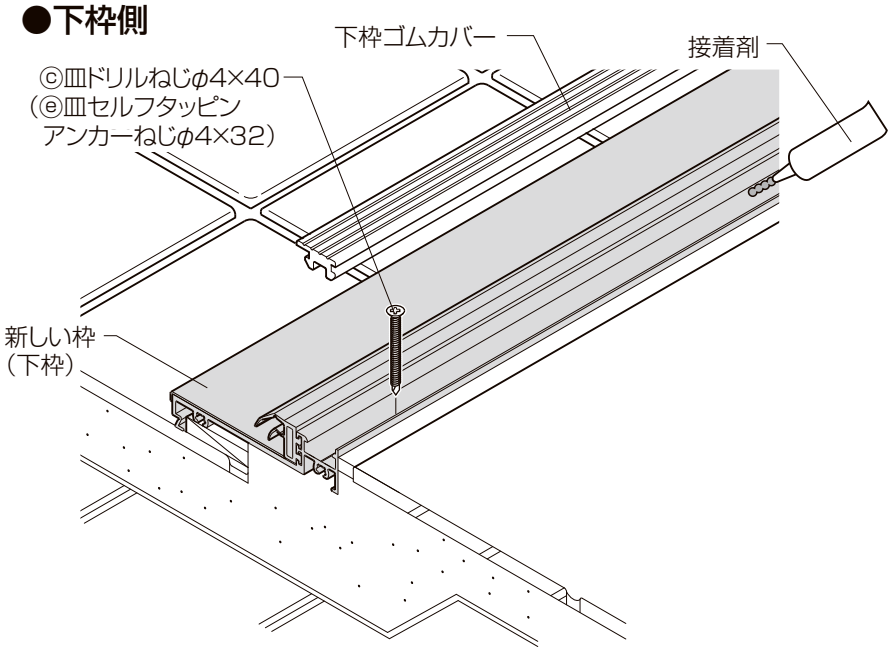
●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

●上枠側



⑧本体･子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から躯体にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で躯体に固定します。
躯体が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピンアンカーねじφ4×32で固定します。

●下枠側

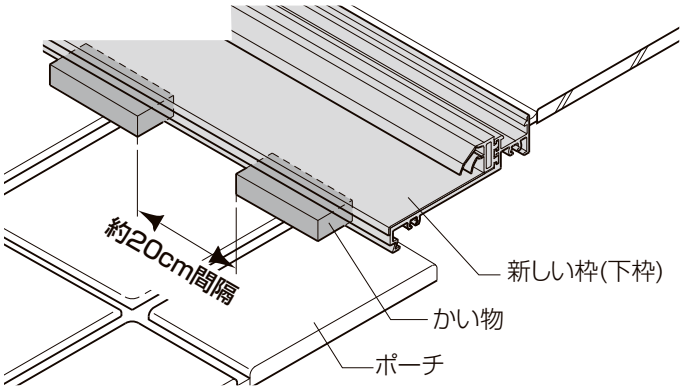


■新しい枠の取付け　躯体固定：半外付枠

⑨下枠のたわみ防止のため、下枠と躯体とのすき間にかい物を入れます。

お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



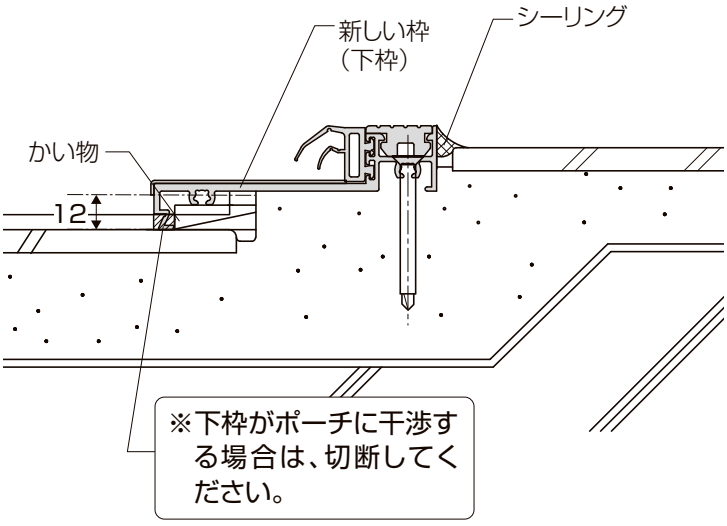
⑩躯体と新しい下枠の接合面(室内側)にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル](別途有償品)を枠組立て時に取付けてください。(P46～P47)

※ポーチと下枠の段差が小さい場合(12mm以下)は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（非断熱枠）

①かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

※断熱仕様の場合は既設枠と新しい枠（上枠・縦枠）を接触させないください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。

⚠注　意

●既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上（スチール枠の場合1.2mm以上）であることを確認してください。製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

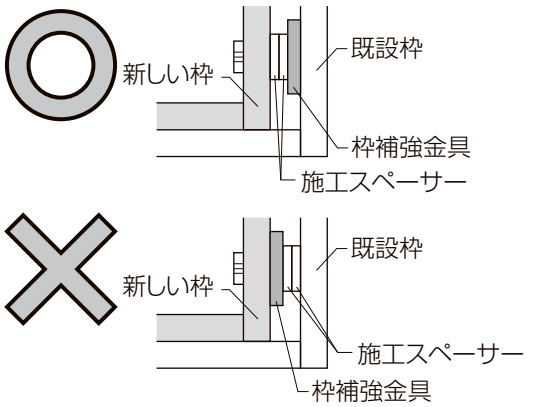
※旧トステム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズは取付可能です。
（ロンカラー等の汎用ドアは対象外）

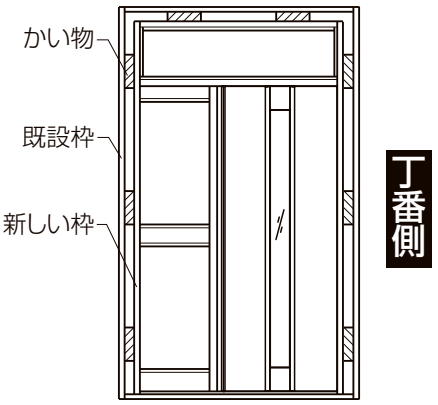
に指定のねじで取付けます。
その際、同梱品のねじは使用せず丁番部の躯体取付けねじで枠補強金具とともにⓕなべドリルねじ（細目）φ4×40で取付けます。（スチール枠の場合、ⓖなべドリルねじ（粗目）φ4×40を使用してください。）
枠補強金具は、丁番側縦枠のみの取付けとなります。

⚠注　意

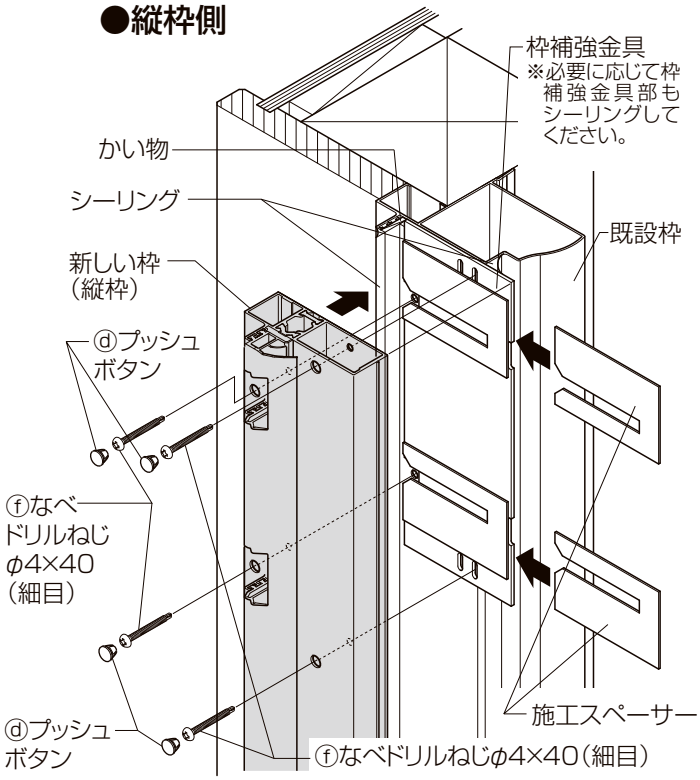
●インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落の原因になります。

※断熱仕様の場合は必ず施工スペーサーを使用し、縦枠を枠補強金具に接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。





●縦枠側



〔同梱品〕使用しません。

ⓐ 上枠・縦枠用	ⓑ 枠補強金具取付け
なべタッピンねじ φ4×60（1種）	なべタッピンねじ φ4×30（1種）

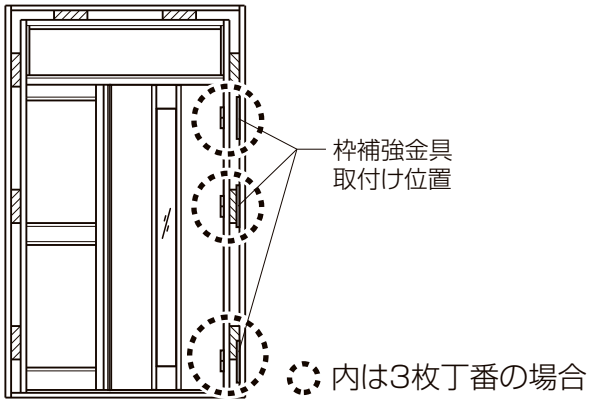
〔別途有償品〕

ⓕ 既設アルミ枠取付け用
なべドリルねじ（細目）φ4×40

ⓖ 既設スチール枠取付け用
なべドリルねじ（粗目）φ4×40

■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（非断熱枠）

③縦枠の室外側の固定穴から、枠補強金具をⓕなべドリル小ねじ（細目）φ4×40で固定します。

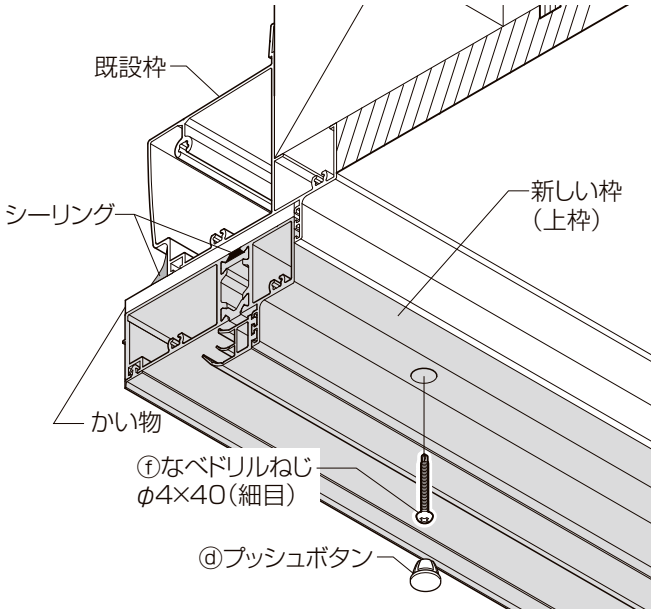


④プッシュボタンをはめ込みます。

⑤既設枠と新しい枠の接合部（室外側／三方）にシーリング材を充てんします。

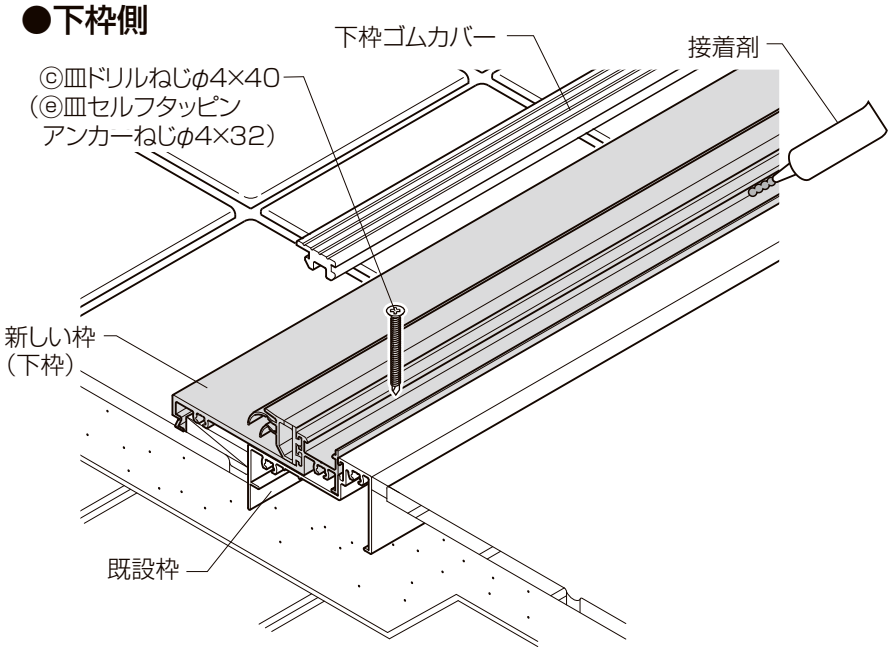
⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。



⑥本体･子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。
既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピンアンカーねじφ4×32で固定します。

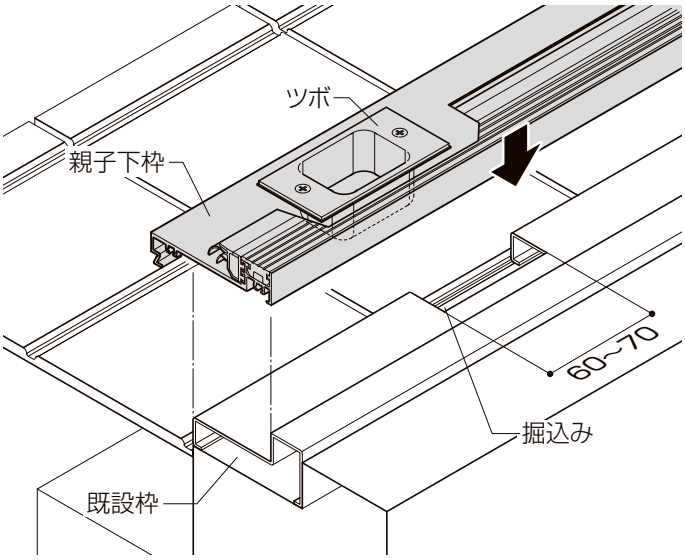
●下枠側



■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（非断熱枠）

〔親子の場合〕

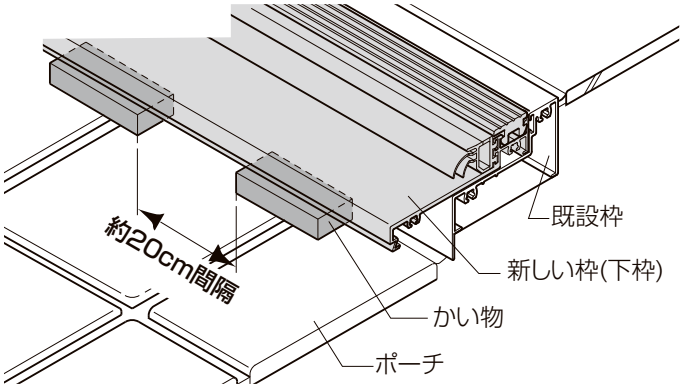
●ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。



⑦下枠のたわみ防止のため、下枠と既設枠とのすき間にかい物を入れます。

お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



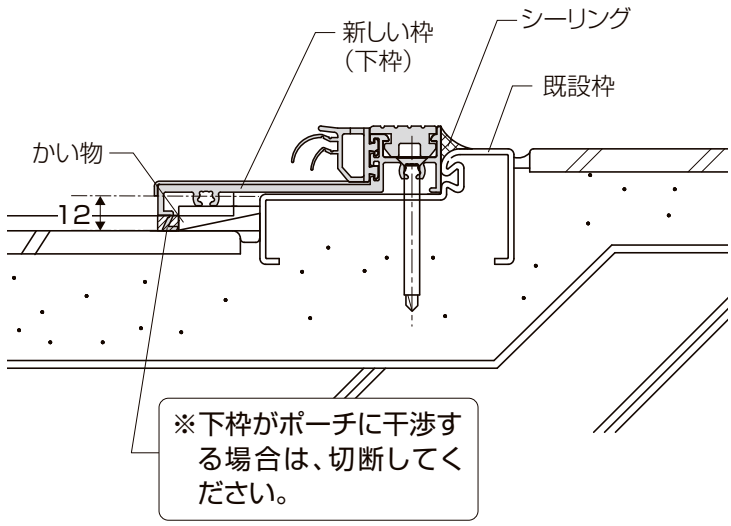
⑧既設枠と新しい下枠の接合面（室内側）にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

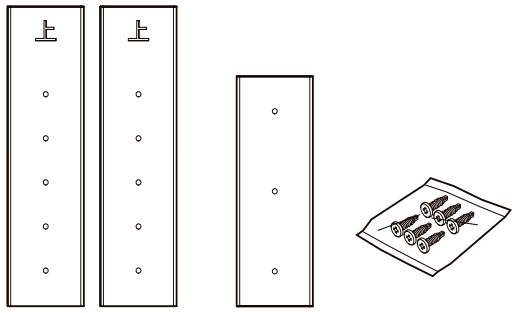
※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル［下枠用Lアングル］（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P46～P47）

※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（断熱枠）　半外枠補強プレート固定

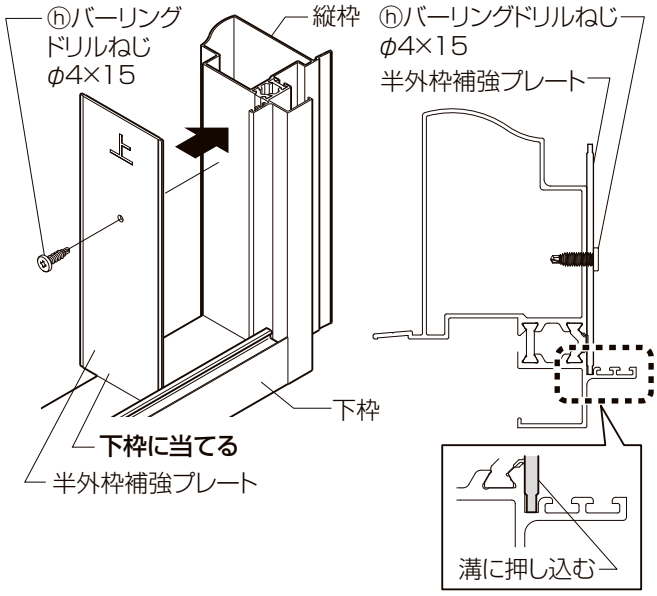
半外枠補強プレート（別途有償品）セット内容



①半外枠補強プレート（別途有償品）縦を「上」表示を上部にくるように下枠にあて、縦枠の溝に押し込み、ⓗバーリングドリルねじφ4×15で取付けてください。

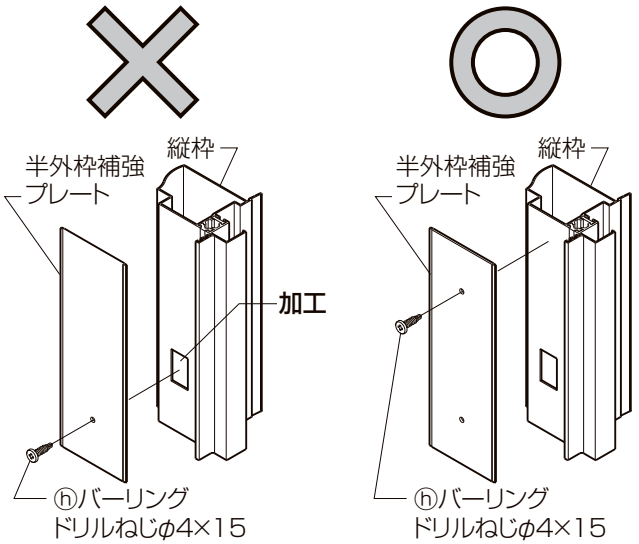
※既設枠に加工がある場合はその上下にねじ止めしてください。

②半外枠補強プレート横を親扉の吊元側縦枠にあて、上枠の溝に押し込み、ⓗバーリングドリルねじφ4×15で取付けてください。



⚠注　意

●既設枠に下穴をあける場合は、φ2.5以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落の原因になります。



既設枠に加工がある場合はその上下にねじ止め

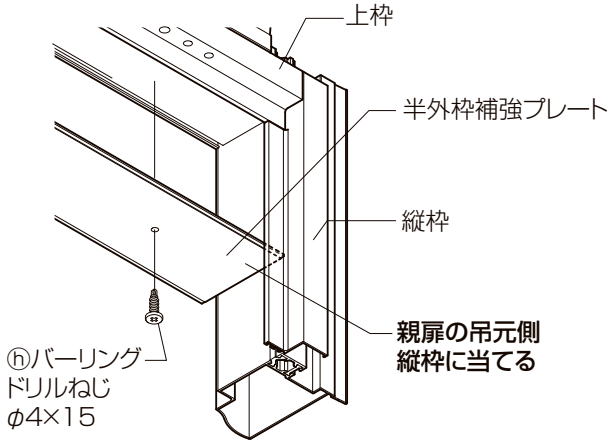
⚠注　意

●既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上（スチール枠の場合1.2mm以上）であることを確認してください。製品強度の不足でドア本体・枠の脱落の原因になります。

※旧トステム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズは取付可能です。（ロンカラー等の汎用ドアは対象外）

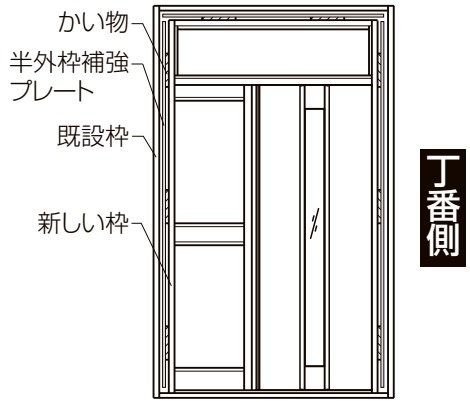
⚠注　意

●インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落の原因になります。



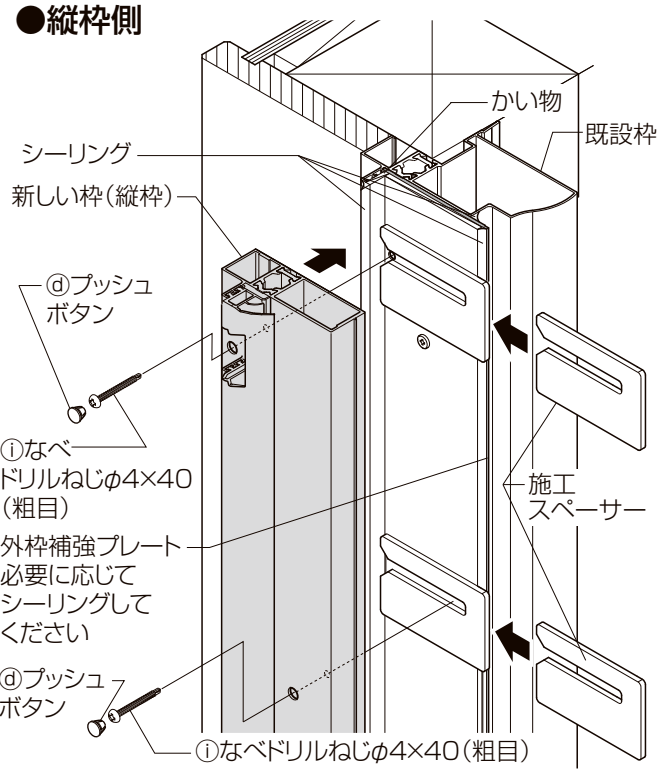
■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（断熱枠）　半外枠補強プレート固定

③かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。
※断熱仕様の場合は半外枠補強プレートと新しい枠（上枠・縦枠）を接触させないください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。

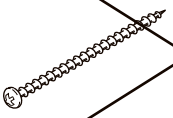
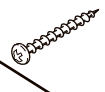


④新しい枠をⓘなべドリルねじ（粗目）φ4×40で取付けます。（同梱品のねじは使用しません。）
※断熱仕様の場合は必ず施工スペーサーを使用し、縦枠を半外枠補強プレートに接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。
⑤縦枠の室外側の穴から、ⓘなべドリルねじ（粗目）φ4×40で固定します。（同梱品の枠補強金具は使用しません。）

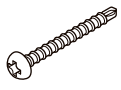
●縦枠側

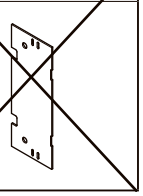


〔同梱品〕使用しません。

ⓐ	ⓑ
上枠・縦枠用	枠補強金具取付け
	
なべタッピンねじ φ4×60（1種）	なべタッピンねじ φ4×30（1種）

〔別途有償品〕

ⓘ
既設枠取付け用

なべドリルねじ（粗目）φ4×40

枠補強金具


■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（断熱枠）　半外枠補強プレート固定

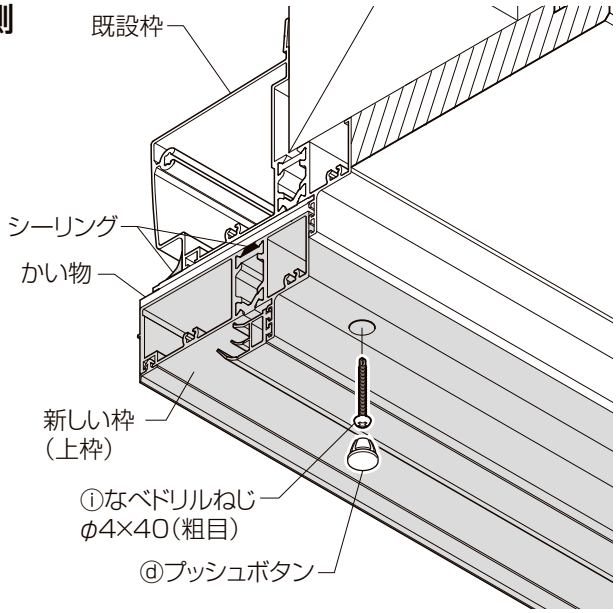
⑥プッシュボタンをはめ込みます。

⑦既設枠と新しい枠の接合部（室外側／三方）にシーリング材を充てんします。

⚠注　意

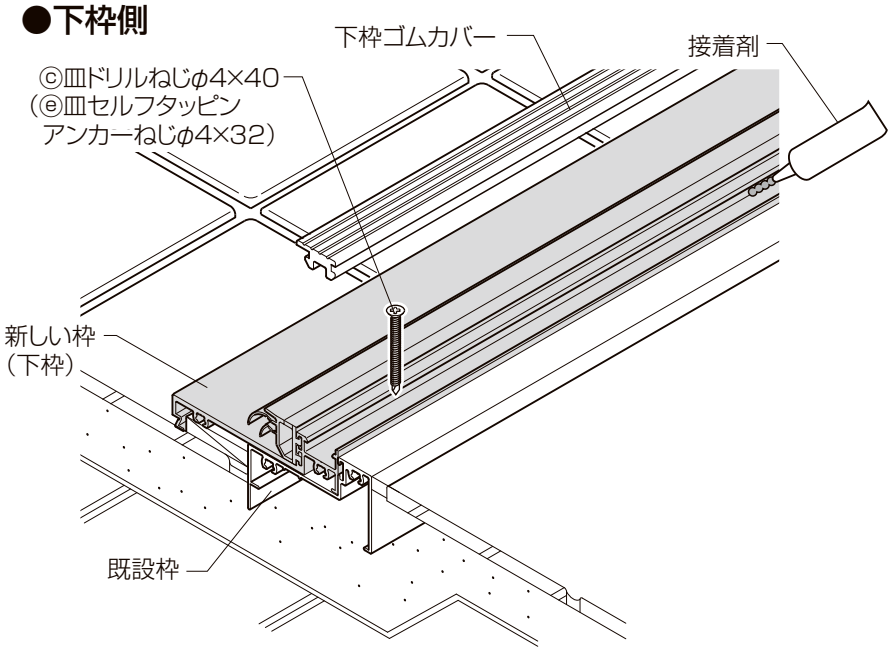
●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

●上枠側



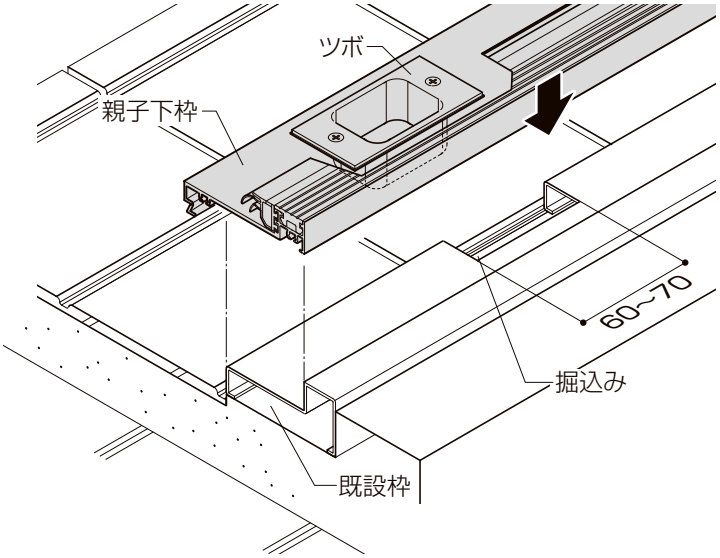
⑧本体･子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。
既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピンアンカーねじφ4×32で固定します。

●下枠側



〔親子の場合〕

●ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。



■新しい枠の取付け　既設枠固定：半外付枠（断熱枠）　半外枠補強プレート固定

⑨下枠のたわみ防止のため、下枠と既設枠とのすき間にかい物を入れます。

お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。

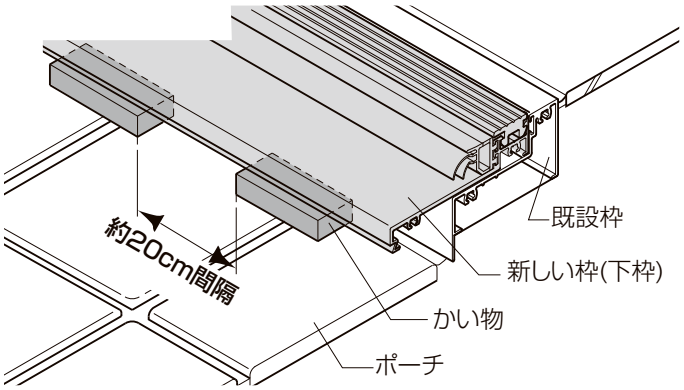
⑩既設枠と新しい下枠の接合面（室内側）にシーリング材を充てんします。

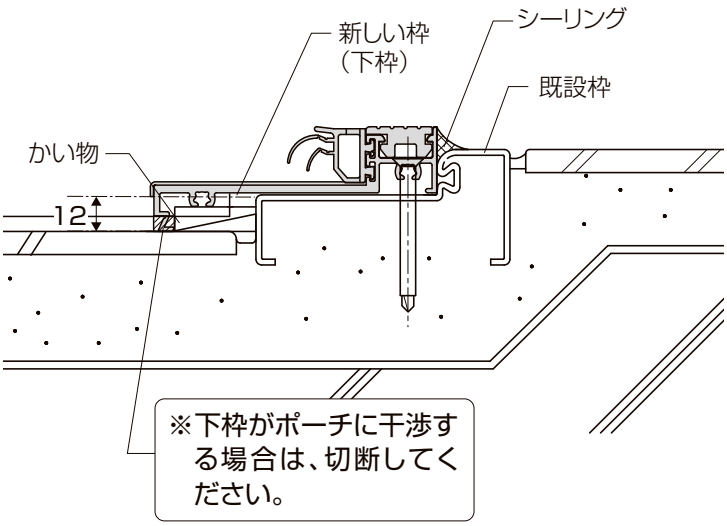
⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル]（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P46～P47）

※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。

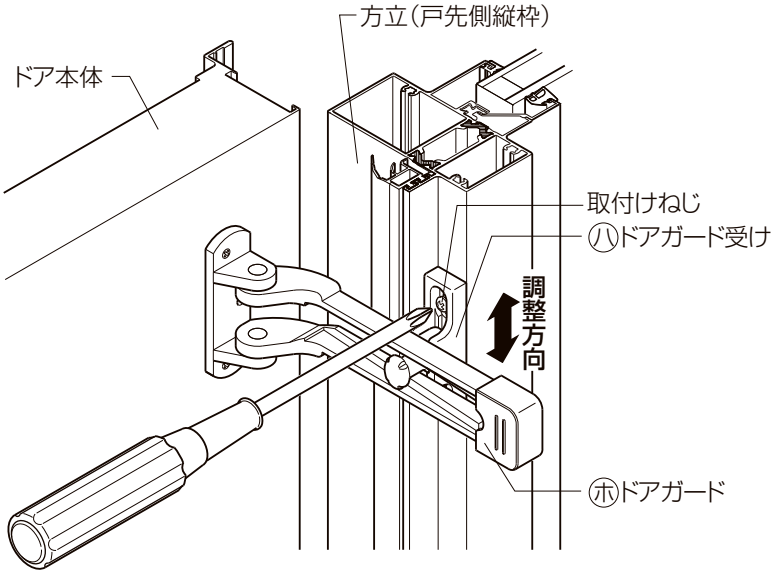


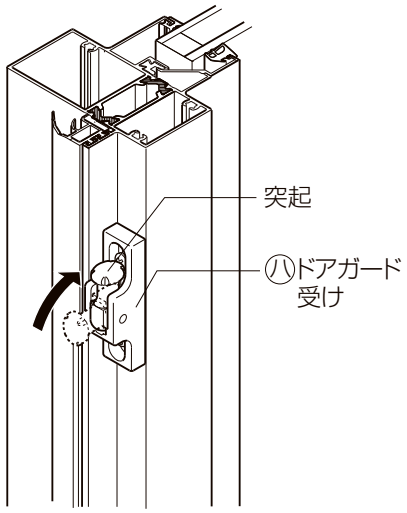


■建付け調整

■ドアガードの調整

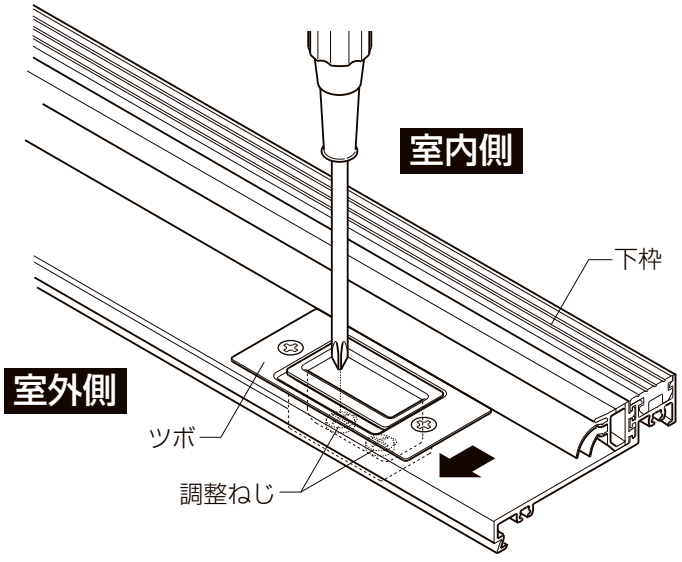
※ドアガードアームはあらかじめ本体の加工穴に合わせ、指定のねじで取付けてください。
※ドアガードが受けに掛らない場合は、受けの取付けねじをゆるめ、位置を調整してください。
（本体側のドアガードは調整できません。）
●ドアガードアームがスムーズに操作できるか、確認してから本固定してください。
●ドアガードを使用しない場合は、受けの突起を収納してください。





■子扉の前後方向の調整
（親子・両開きドアの場合）

①子扉を開けます。
②ツボ内部の調整ねじをゆるめ、位置を調整してください。室外側に 3.5mm まで子扉位置を調整できます。
※上枠・下枠共に調整できます。
※下枠のツボの中に砂などがたまった場合は、清掃してください。



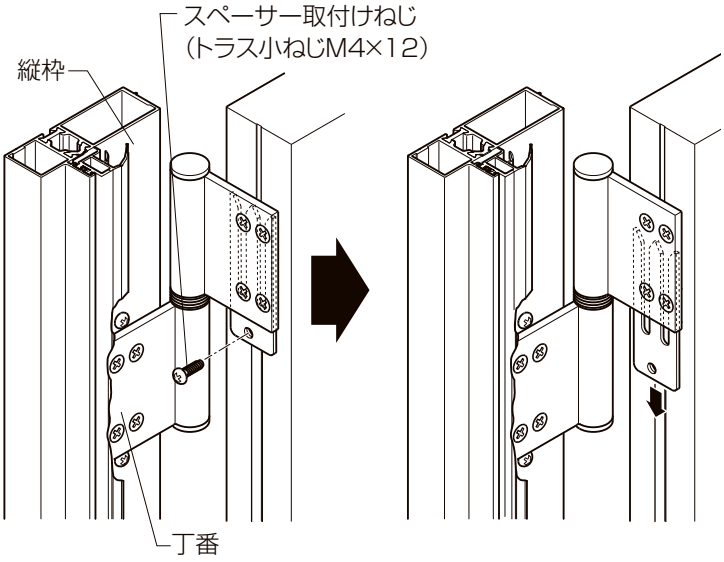
■建付け調整

■ドア本体の調整（断熱仕様（k2・k3）・断熱仕様（k4）・アルミ仕様）

※ドア本体を吊込んだ後、枠とドア本体のすき間が納まり図通りであるか確認してください。
納まり図通りでない場合は、以下の手順ですき間を調整してください。

〔左右方向のすき間の調整〕

※スペーサーはあらかじめ本体に取付けてあります。
①スペーサー取付けねじを外します。
②丁番取付けねじ（4 本）をゆるめます。
③スペーサーを引き抜いて外します。
④丁番ねじを締付けます。
※スペーサーを 1 枚外すと 1.5 mm、2 枚外すと 3 mmドア本体がつり元側へ寄ります。
※スペーサーを追加すると、戸先側へ寄ります。

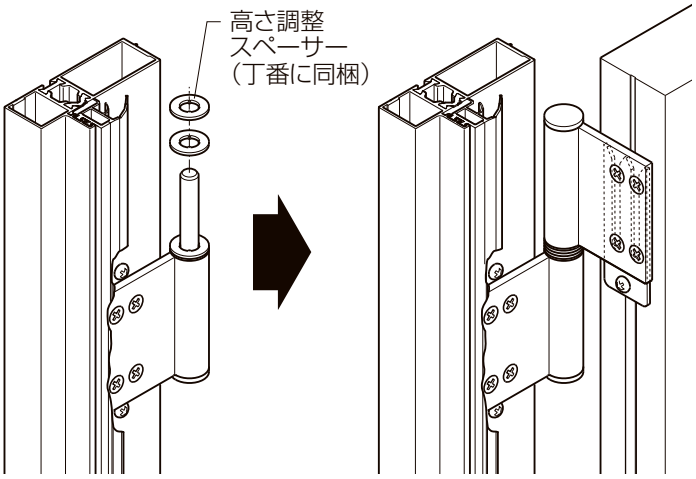


⚠注　意

●丁番取付けねじを全部外さないでください。本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。

〔上下方向のすき間の調整〕

●ドアを枠から外し、丁番の軸に付属の高さ調整スペーサー（丁番に同梱）を入れます。
※ 1 枚入れると 1.5 mm、2 枚入れると 3mm ドアが上に上がります。

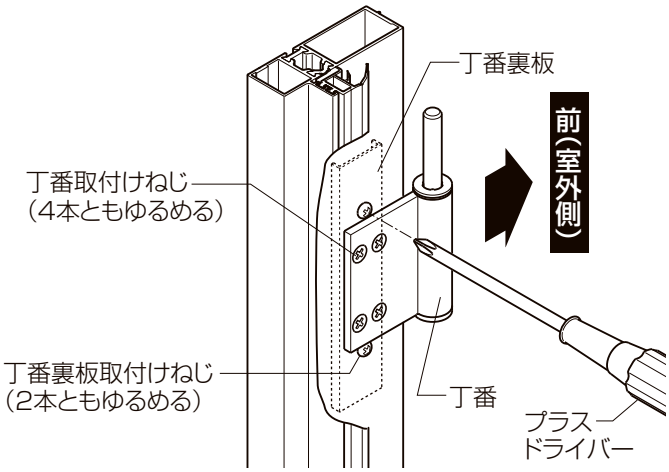


〔前後（室内・室外側）方向の調整〕

①ドア本体を枠から外し、枠側の丁番取付けねじ（4 本）と丁番裏板取付けねじ（2 本）をゆるめます。
②丁番裏板ごと前に出すと室外側に 1.5 mm、後にズラすと− 1.5 mmまでドア本体が動きます。
③①でゆるめた丁番取付けねじと丁番裏板取付けねじを締付けます。

⚠注　意

●丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。（締付けトルクは、2.5 ± 0.5N・m {25 ± 5kgf・cm}）
ドア本体の脱落の原因となります。



お願い

※取付けねじを全部外さないでください。
丁番裏板が脱落します。

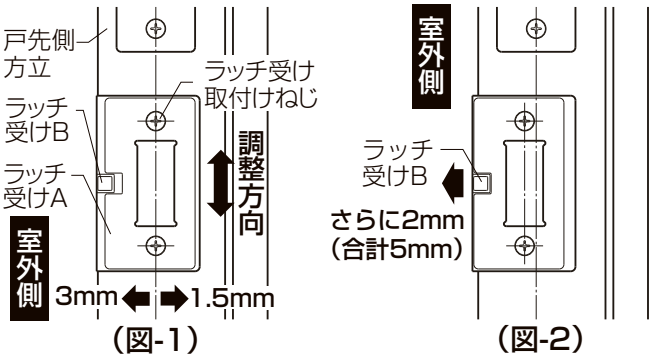
■建付け調整

■ラッチ受け・ストライクの調整

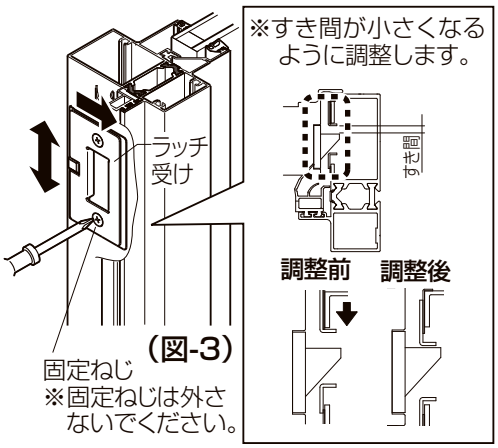
1ラッチ受けの調整(図-1、図-2、図-3)

①ラッチ受けの固定ねじを2本とも回しゆるめます。

②ラッチ受けの位置を合わせてからねじを締直します。



(図-1)　(図-2)



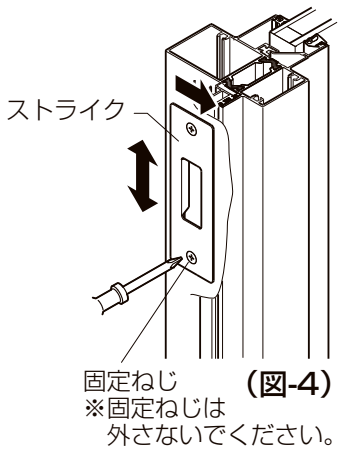
(図-3)

2ストライクの調整(図-4)

※ラッチ受け調整後、どうしても鍵が掛からない場合に実施してください。

①ストライクの固定ねじを2本ともゆるめます。

②ストライクの位置を合わせてからねじを締直します。



(図-4)

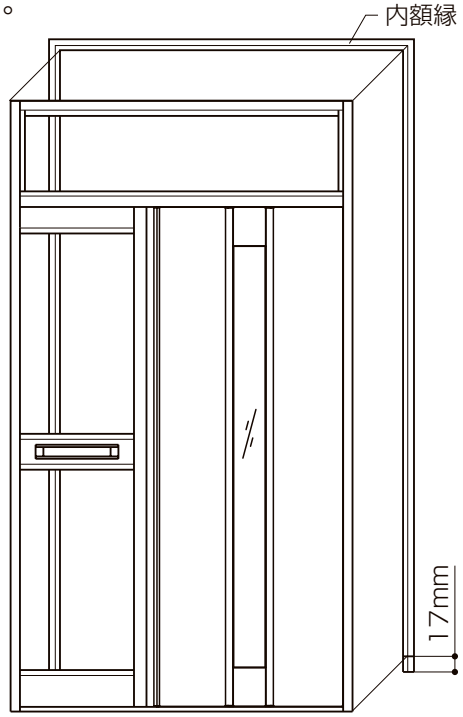
お願い

※ストライク取付けねじを全部外さないでください。トロヨケが脱落し、取付けられなくなります。

※ラッチ受け・ストライクの調整はドアクローザーの調整と合わせて行ってください。

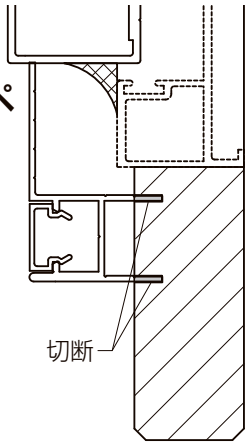
■内額縁の取付け

※内額縁は、23（小）・40（大）・80（特大）の３種類あります。
　現場の納まりに合わせて選択した部材を取付けてください。



1 内額縁の切詰め

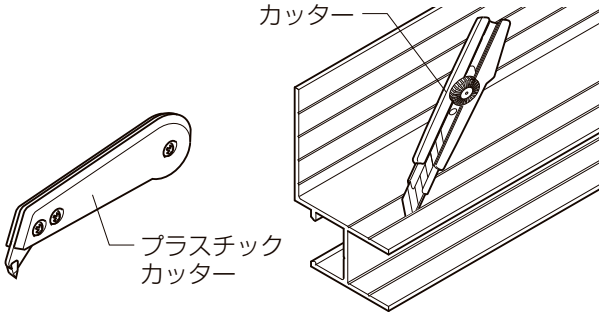
①現場の納まりに合わせて、内額縁を必要な長さに切詰めます。
※縦額縁は右図のように、長めに設定されています。
②既設の室内額縁の納まりに合わせて、
　内額縁を必要に応じて切断します。



【切断方法1】…カッター・プライヤー・ペンチを使用する場合

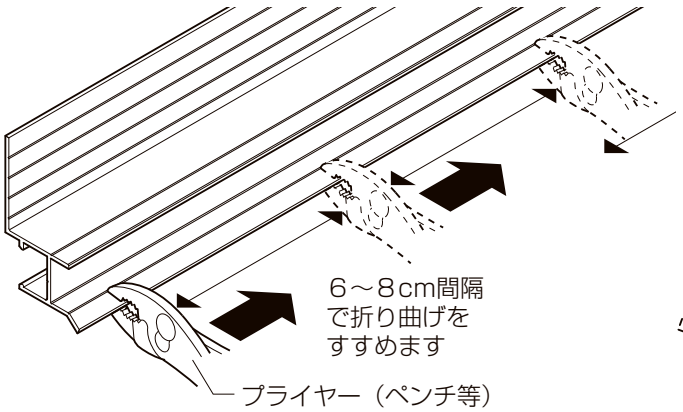
●内額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。 この時アルミ形材の厚みを６割以上切込んでください。

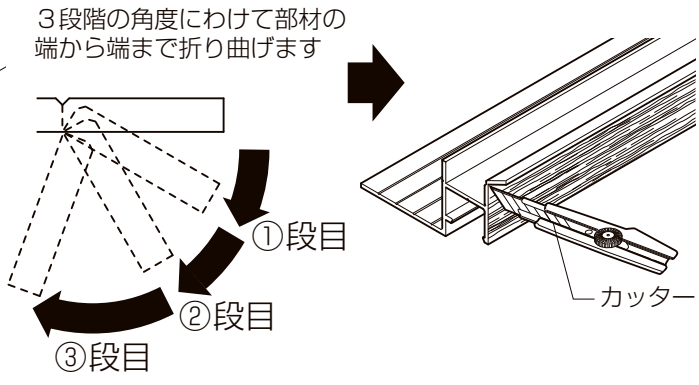
●プライヤー（ペンチ等）で下図のように３段階の角度にわけて折り曲げます。
　①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート１枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。



お願い

※無理に折り曲げたり、部分的に１度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げがかたい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。
※サンダー等、熱を発する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。





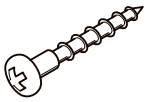
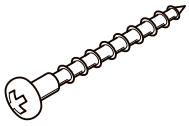
【切断方法2】…丸のこを使用する場合

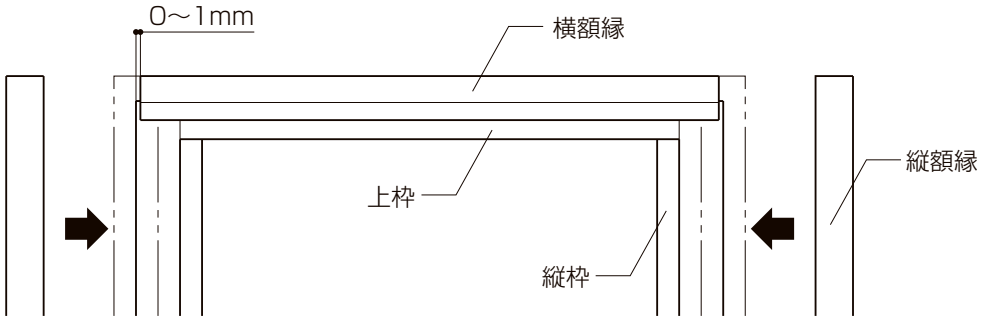
●納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

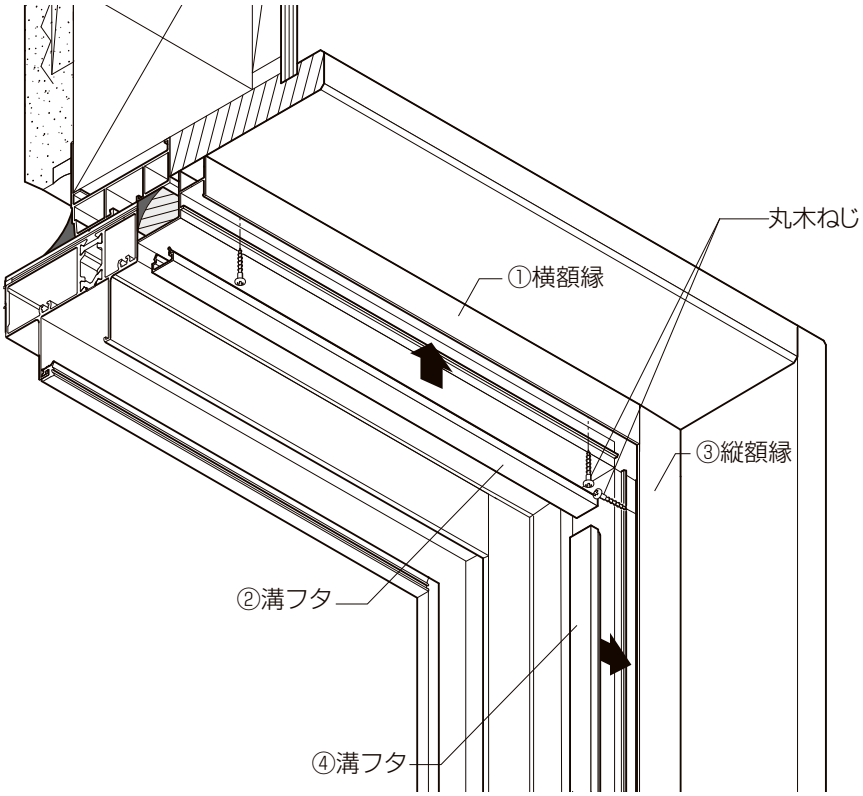
❷ 内額縁の取付け

※右記のねじで取付けます。
①既設枠が隠れるようにし、下図の位置に横額縁を取付けます。
②横額縁に溝フタを取付けます。
③既設枠が隠れるようにし、切欠き部を横額縁にはめて縦額縁を取付けます。
④縦額縁に溝フタを取付けます。
※溝フタは完全にはめ込んだことを確認してください。

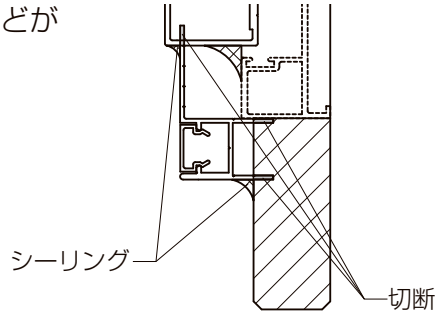
■使用ねじ一覧

ⓐ	ⓑ	ⓒ
内額縁(小)取付け用	内額縁(大)取付け用	内額縁(特大)取付け用
		
丸木ねじφ 3.8×32	丸木ねじφ 3.8×50	丸木ねじφ 3.8×90





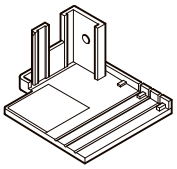
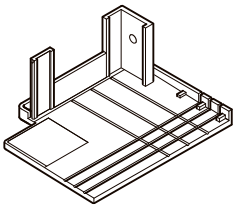
※内額縁を切断し、切り口が目立つ場合や、既設の室内額縁などが反っている場合は、シーリングで隠してください。



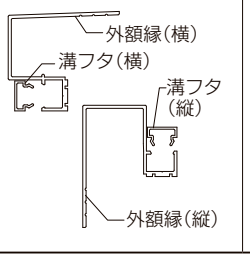
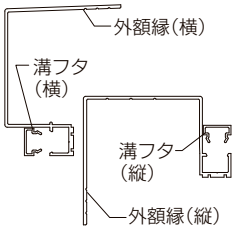
■外額縁 25・50（一体型）の取付け

※外額縁は、一体型の 25・50、分割型の 25・50・75・100・150 の 7 種類があります。現場の納まりに合わせて部材を選択し、取付けてください。
※取付けの図はすべて外額縁 25 で説明しています。
※外額縁は本体を吊込んだ後に取付けてください。順序を間違えると取付けができなくなります。

■使用ねじ・部品一覧

ⓐ	ⓑ	ⓒ
額縁取付け用	額縁キャップ（外額縁 25 用）	額縁キャップ（外額縁 50 用）
 なべドリルねじ φ4×13		

■部材一覧表

外額縁 25	外額縁 50
	

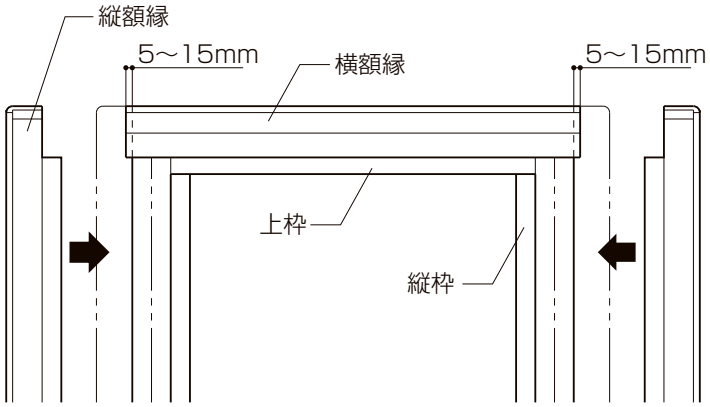
1 切詰め加工

①外額縁（横）、溝フタ（横）の切断寸法は、下表の切断寸法計算式より算出して切詰めてください。

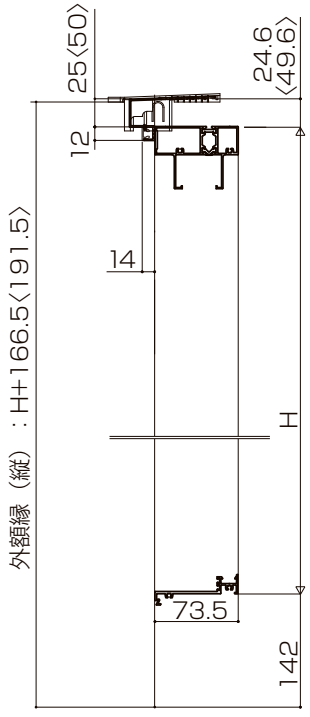
■切詰寸法計算式

部材名	切断寸法計算式
外額縁 25・50（横）	W＋20
溝フタ（横）	W＋20

※外額縁（縦）、溝フタ（縦）は、現場の納まりに合わせて切詰めてください。
※出荷時は、ドア下枠下端より 142mm 出ています。

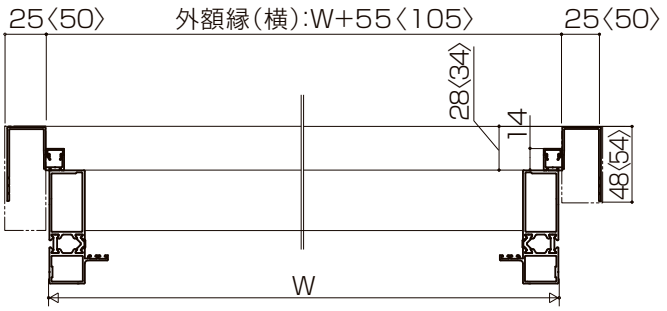


●縦断面図



〈 〉内寸法は外額縁（50）を示します。

●横断面図



〈 〉内寸法は外額縁（50）を示します。

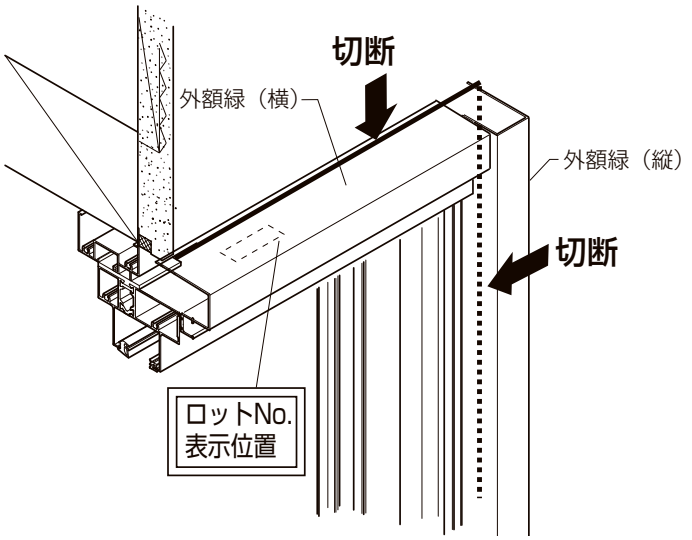
②外壁の納まりに合わせて、外額縁を必要に応じて切断します。

【切断方法1】…カッター・プライヤー・ペンチを使用する場合

●外額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。この時アルミ形材の厚みを６割以上切込んでください。



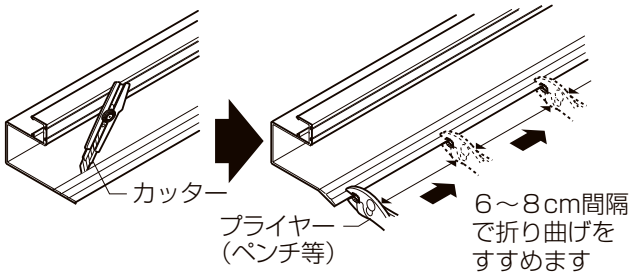
●プライヤー（ペンチ等）で下図のように３段階の角度にわけて折り曲げます。①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。 同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート１枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。

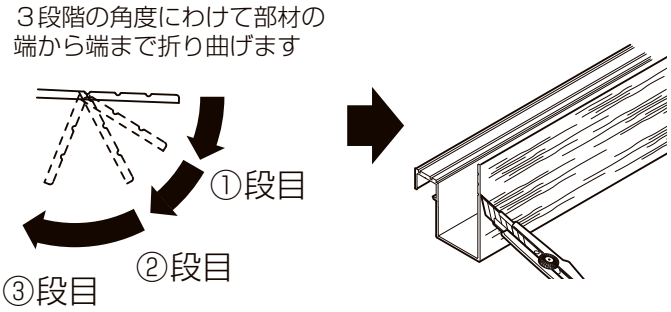


お願い

※無理に折り曲げたり、部分的に１度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げがかたい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。

※サンダー等、熱を発する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。





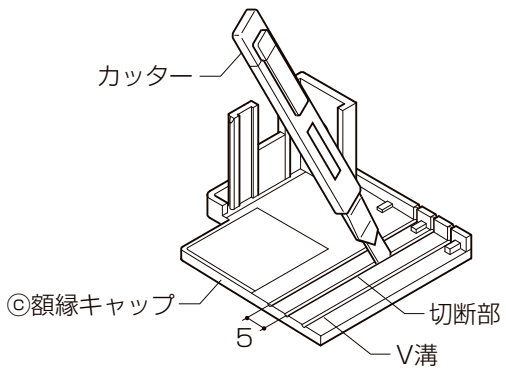
【切断方法2】…丸のこを使用する場合

●納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

❷ 額縁キャップの切断

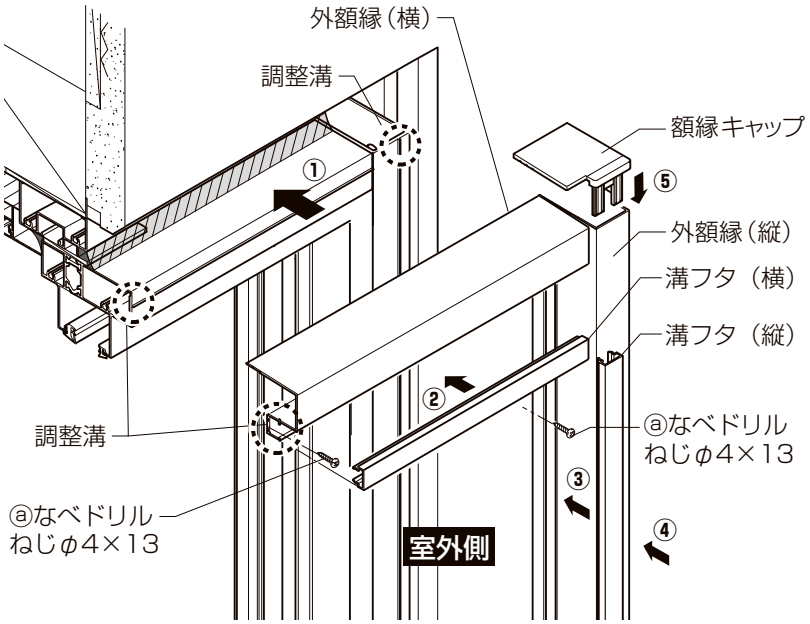
●納まりに合わせて切詰めた外額縁と同じ位置にくるＶ溝に、カッターで数回切れ目を入れ、カットしてください。

※額縁キャップには、カッターで切りやすいように 5mm 間隔でＶ溝が入っています。

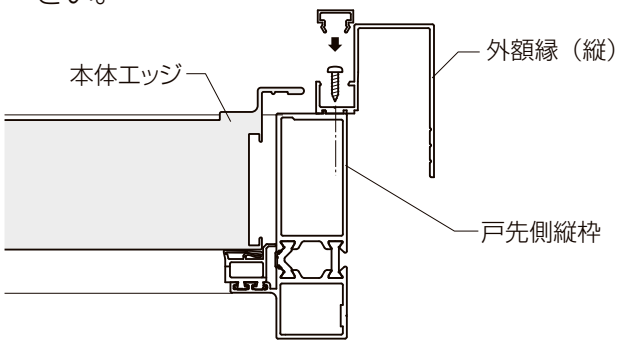


3 外額縁の取付け

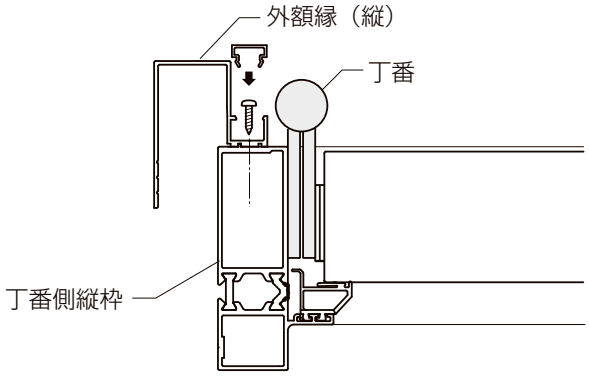
①外額縁（横）を調整溝に差込み、ⓐなべドリルねじφ４×13で枠に取付けます。
②溝フタ（横）を外額縁（横）に取付けます。
※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。
③外額縁（縦）を調整溝に差込み、ⓐなべドリルねじφ４×13で枠に取付けます。
④溝フタ（縦）を外額縁（縦）に取付けます。
※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。
⑤裏面の両面テープをはがして、額縁キャップを外額縁（縦）に取付けてください。
※外額縁（縦）と外額縁（横）の間にすき間がある場合は、位置を調整し、外額縁（横）を室外側に起こしながら、額縁キャップを張り付けてください。



※片開きの場合、戸先側縦枠に取付ける額縁は、本体エッジが当たらない位置に取付けてください。

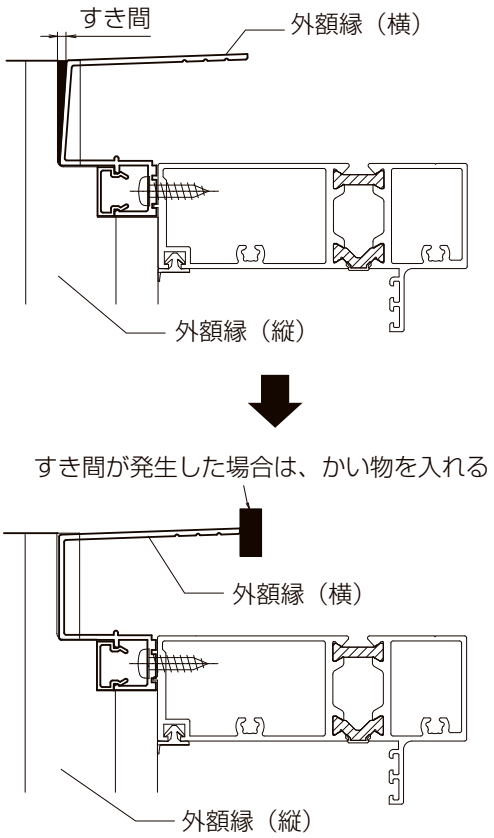


※丁番側に取付ける額縁は、丁番が当たらない位置に取付けてください。



■すき間発生時の対応

外額縁取付け時、現場の状況により外額縁（縦）の加工部にすき間があくことがあります。
すき間発生時は、外額縁（横）の後ろにかい物を入れて外額縁（横）をおこしてください。

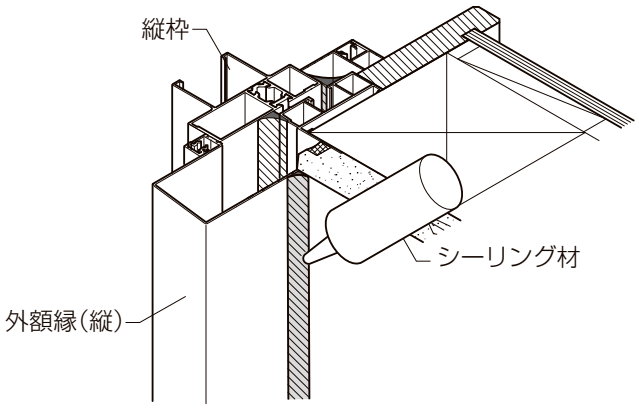


※外周部のシーリング処理前に実施してください。

■外周部のシーリング処理

雨仕舞いのため、外周部（上側および両脇）にシーリング材を充てんします。

※下枠部・外額縁下部については、全面シーリングをせずに、両端部から水が抜けるようすき間を確保してください。



⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

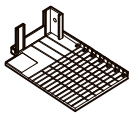
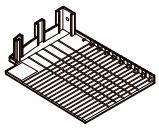
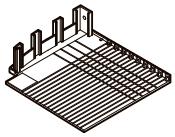
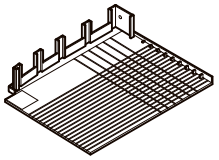
■外額縁 25・50・75・100・150（分割型）の取付け

※外額縁は、一体型の 25・50、分割型の 25・50・75・100・150 の 7 種類があります。現場の納まりに合わせて部材を選択し、取付けてください。

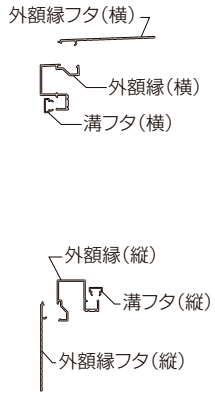
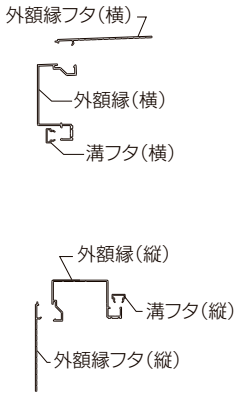
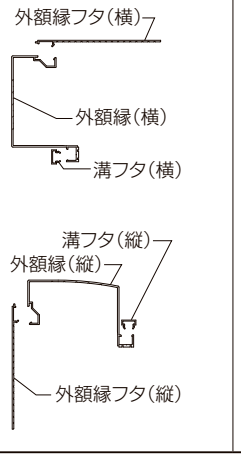
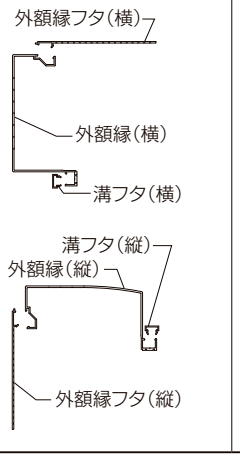
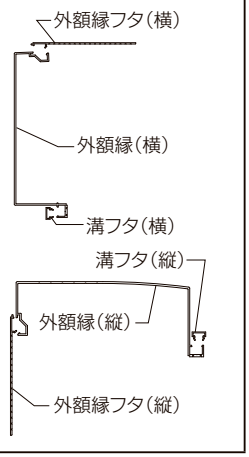
※取付けの図は、すべて外額縁 75 で説明しています。

※外額縁は本体を吊込んだ後に取付けてください。順序を間違えると取付けができなくなります。

■使用ねじ・部品一覧

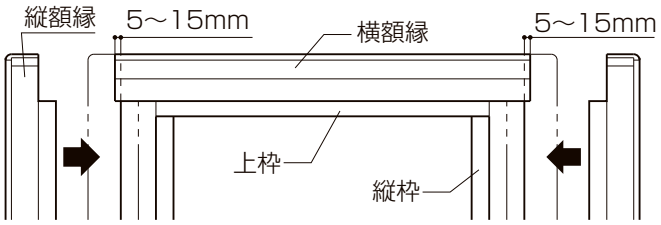
ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ	ⓕ
額縁取付け用	額縁キャップ（外額縁25用）	額縁キャップ（外額縁50用）	額縁キャップ（外額縁75用）	額縁キャップ（外額縁100用）	額縁キャップ（外額縁150用）
 なべドリルねじφ4×13					

■部材一覧表

外額縁25	外額縁50	外額縁75	外額縁100	外額縁150
				

1 切詰め加工

①外額縁（横）、溝フタ（横）、外額縁フタ（横）の切断寸法は、下表の切断寸法計算式より算出して切詰めてください。



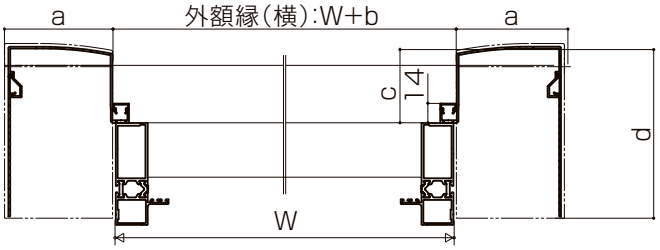
■切詰寸法計算式

部材名	切断寸法計算式
外額縁 25･50･75･100･150（横）	W＋20
溝フタ	W＋20
外額縁フタ	W＋20

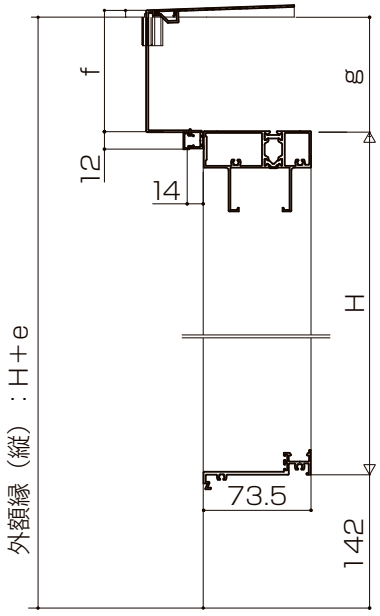
※外額縁（縦）、溝フタ（縦）、外額縁フタ（縦）は、現場の納まりに合わせて切詰めてください。

※出荷時は、ドア下枠下端より 142mm 出ています。

●横断面図



●縦断面図



■寸法表

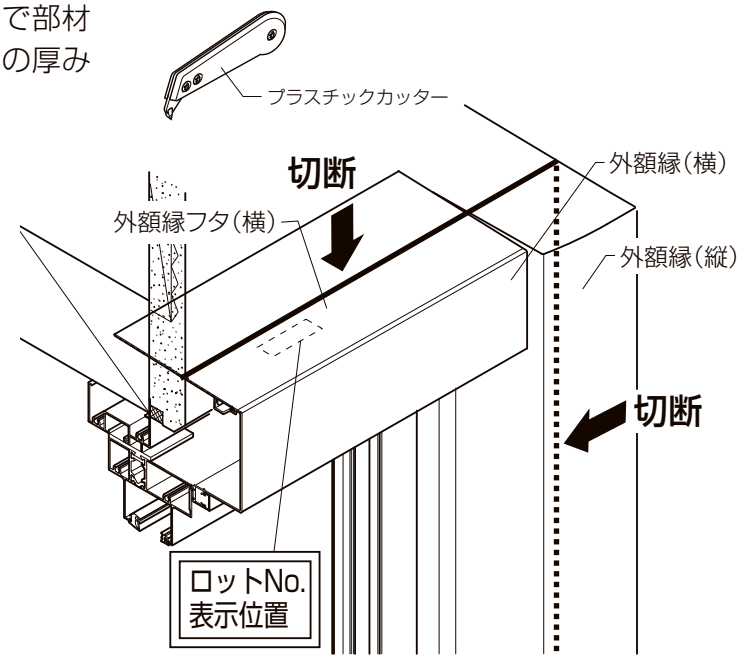
	a	b	c	d	e	f	g
25	25	55	28	99	166.5	25	24.6
50	50	105	34	99	191.5	50	49.6
75	75	155	55	122.4	216.5	75	74.6
100	100	205	55	122.4	231.5	90	89.6
150	150	305	65	132.4	291.5	150	149.6

②外壁の納まりに合わせて、外額縁フタを必要に応じて切断します。
※外額縁フタを外額縁にかん合させた状態で納まりを確認してください。

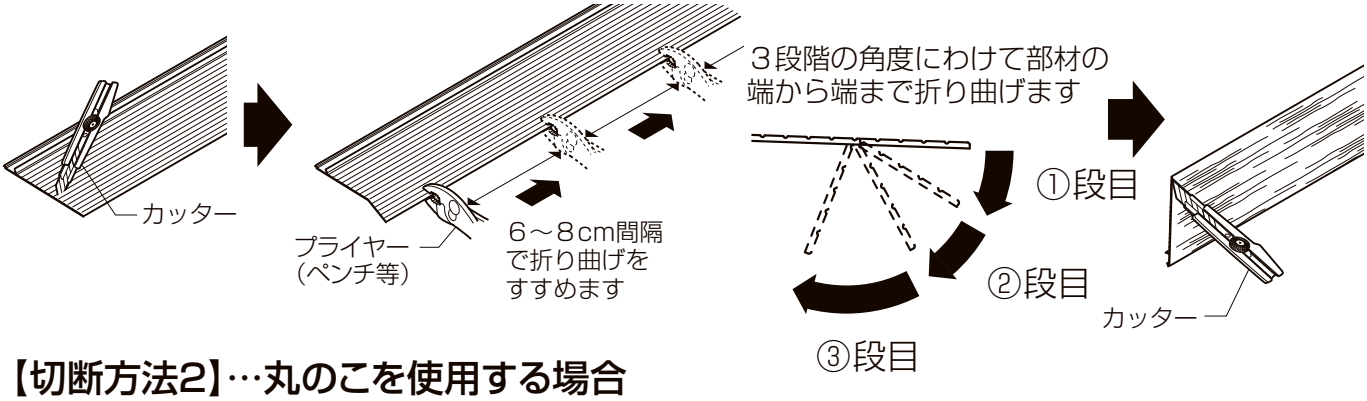
【切断方法1】…カッター・プライヤー・ペンチを使用する場合

●外額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。この時アルミ形材の厚みを６割以上切込んでください。

●プライヤー（ペンチ等）で下図のように３段階の角度にわけて折り曲げます。①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。 同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート１枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。



お願い
※無理に折り曲げたり、部分的に１度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げがかたい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。
※サンダー等、熱を発する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。

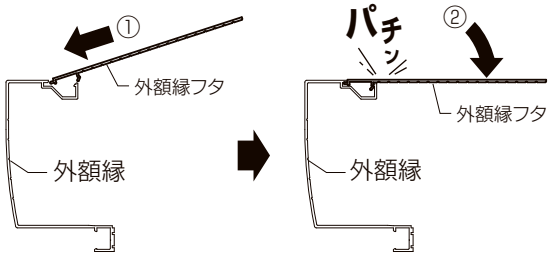


【切断方法2】…丸のこを使用する場合

●納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

❷外額縁と外額縁フタのかん合

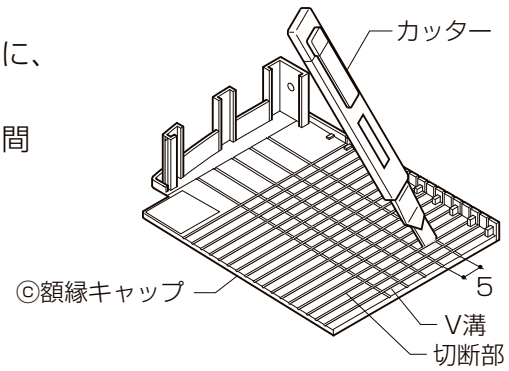
①外額縁フタの先端を外額縁の溝に突き当てます。
②外額縁フタのツメが、外額縁にパチンとかん合するまで押し下げます。
※かん合は、切断後に端部から行ってください。



3 額縁キャップの切断

●納まりに合わせて切詰めた外額縁と同じ位置にくるV溝に、カッターで数回切れ目を入れ、カットしてください。

※額縁キャップには、カッターで切りやすいように5mm間隔でV溝が入っています。



4 外額縁の取付け

①外額縁（横）を調整溝に差込み、ⓐなべドリルねじφ４×13で枠に取付けます。

②溝フタ（横）を外額縁（横）に取付けます。

※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。

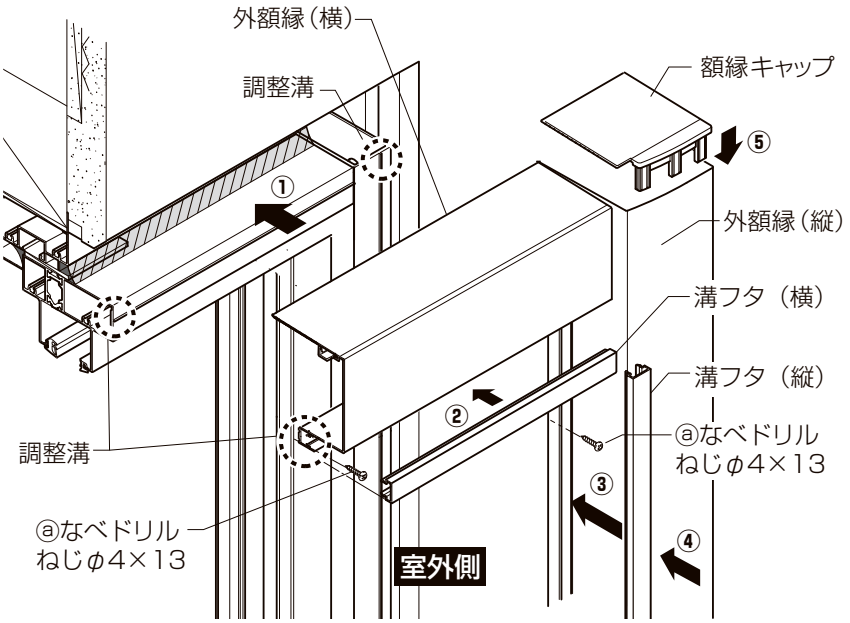
③外額縁（縦）を調整溝に差込み、ⓐなべドリルねじφ４×13で枠に取付けます。

④溝フタ（縦）を外額縁（縦）に取付けます。

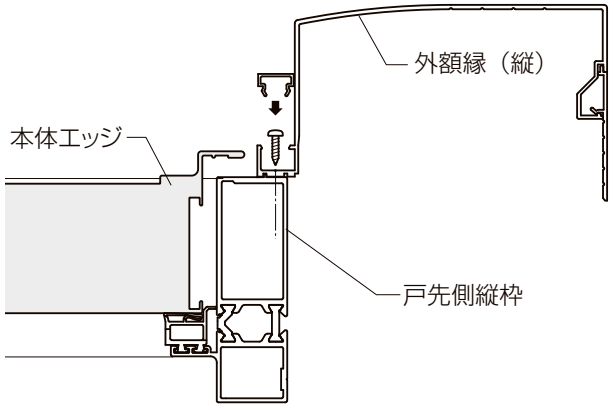
※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。

⑤裏面の両面テープをはがして、額縁キャップを外額縁（縦）に取付けてください。

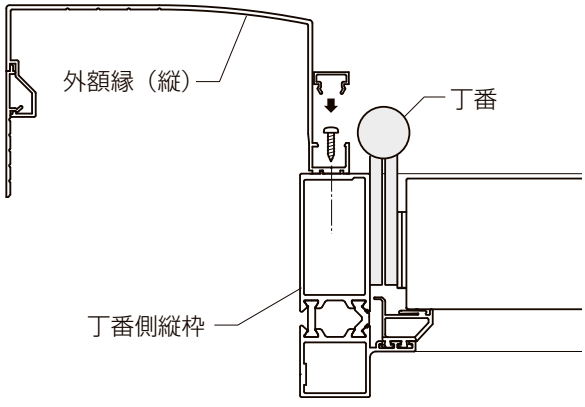
※外額縁（縦）と外額縁（横）の間にすき間がある場合は、位置を調整し、外額縁（横）を室外側に起こしながら、額縁キャップを張り付けてください。



※片開きの場合、戸先側縦枠に取付ける額縁は、本体エッジが当たらない位置に取付けてください。

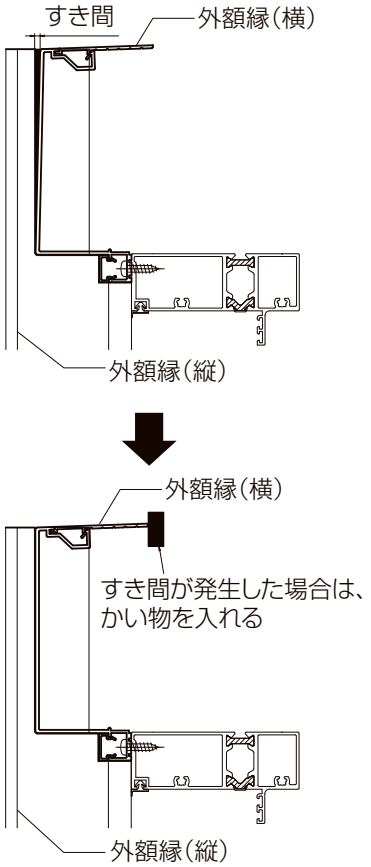


※丁番側に取付ける額縁は、丁番が当たらない位置に取付けてください。



■すき間発生時の対応

外額縁取付け時、現場の状況により外額縁（縦）の加工部にすき間があくことがあります。
すき間発生時は、外額縁（横）の後ろにかい物を入れて外額縁（横）をおこしてください。

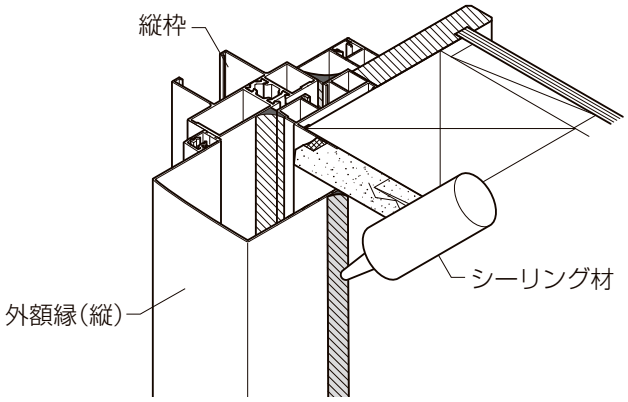


※外周部のシーリング処理前に実施してください。

■外周部のシーリング処理

雨仕舞いのため､外周部（上側および両脇）にシーリング材を充てんします。

※下枠部・外額縁下部については、全面シーリングをせずに、両端部から水が抜けるようすき間を確保してください。



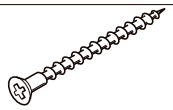
⚠注　意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

■下枠フラット材（別途有償品）・下枠補強アングル［下枠用Lアングル］（別途有償品）の取付け

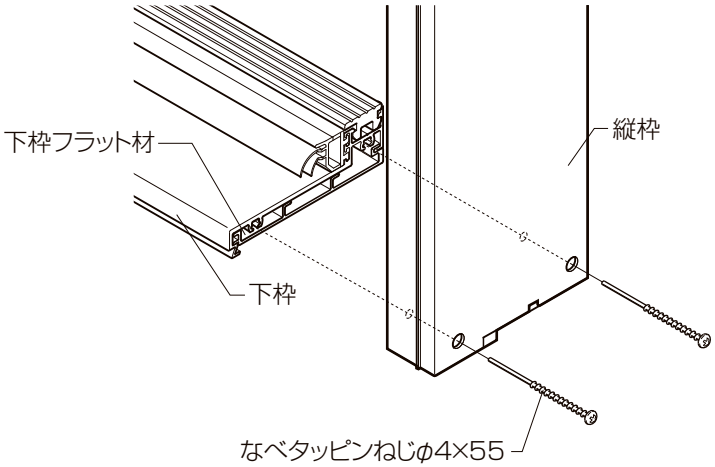
●下枠フラット材の取付け

■使用ねじ一覧

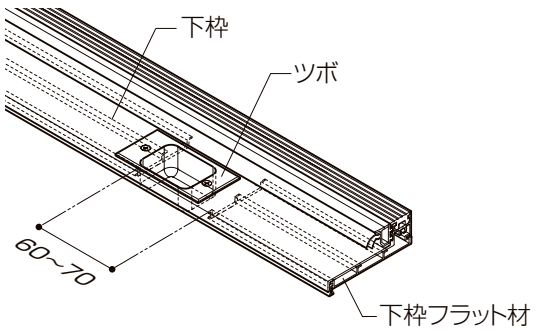
ⓐ
下枠取付け用

皿セルフタッピン アンカーねじ φ４×32

お願い
※順序を間違えると取付けができなくなります。
下記の取付手順に従ってください。

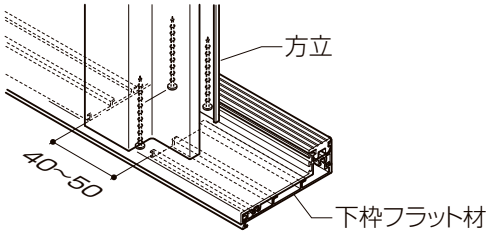
①下枠フラット材を下枠に差込みます。
※親子・両開き枠の場合は、ツボの突起部が下枠フラット材に当たりますので、あらかじめ下枠フラット材を切断してください。（図 1）
※袖付き枠の場合は、方立取付けねじが下枠フラット材に当たりますので、あらかじめ下枠フラット材を切断してください。（図 2）
②下枠と縦枠を固定し、枠を組立てます。



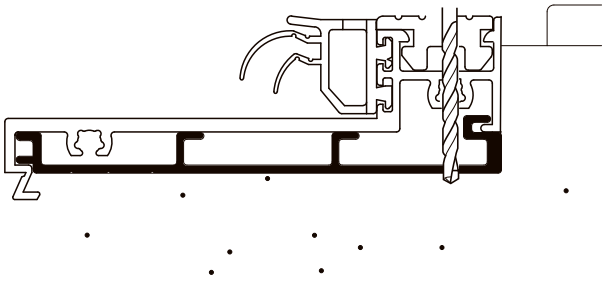
■（図 1）親子・両開きの場合



■（図 2）袖付きの場合

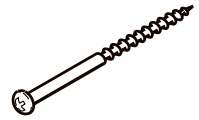


③下枠取付け穴から下枠フラット材を貫通させてドリルでφ３．５の穴をあけ、ⓐ皿セルフタッピンアンカーねじφ４× 32 で固定します。
※下枠補強アングル［下枠用 L アングル］も取付け可能です。



●下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］（別途有償品）の取付け

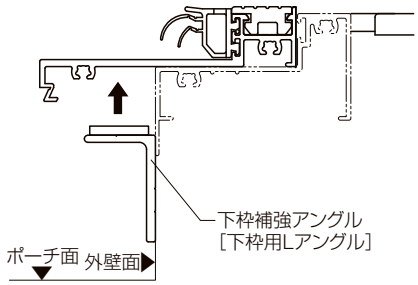
■使用ねじ一覧

ⓐ
躯体（既設枠）固定用

なべセルフタッピンアンカーねじ φ５×７０

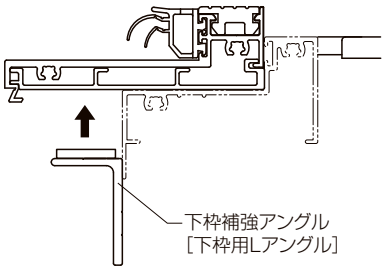
⚠注　意

●親子・両開き納まりで下枠とポーチ面の立上がりが大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］（別途有償品）を取付けてください。下枠のツボ部分が破損し、思わぬケガをするおそれがあります。

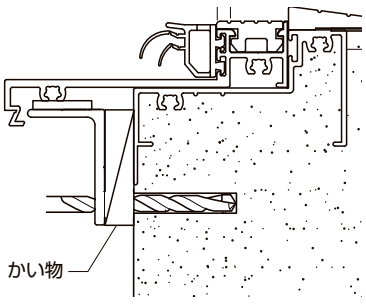
①枠を組立て躯体に取付けます。
②下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］の位置決めをします。
※親子・両開き枠の場合は、ツボの突起部が下枠フラット材に当たりますので、あらかじめ下枠フラット材を切断してください。（P46 図 1）
※袖付き枠の場合は、方立取付けねじが下枠フラット材に当たりますので、あらかじめ下枠フラット材を切断してください。（P46 図 2）



（下枠フラット材を使用した場合）

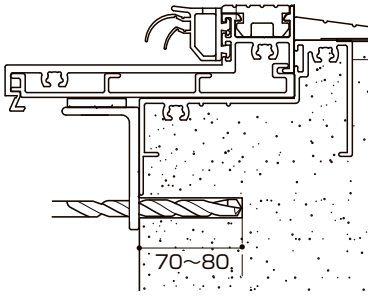


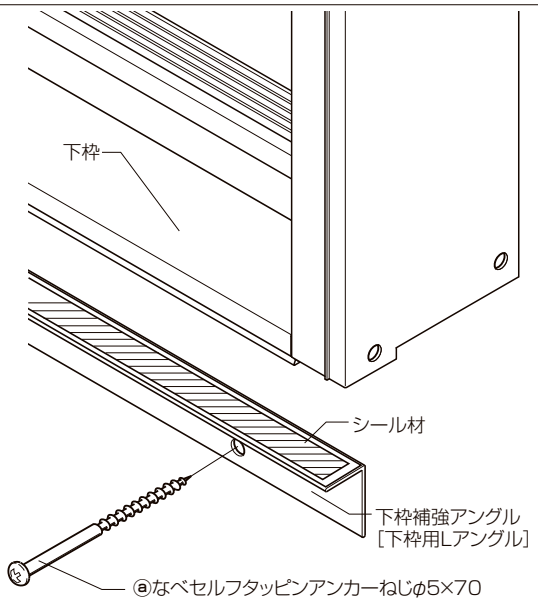
③躯体外壁面にドリルでφ４．３の穴をあけ、ⓐなべセルフタッピンアンカーねじφ５×７０で固定します。



下枠のタッピングホールがのるようにしてください。
※のらない場合はかい物を入れてください。

（下枠フラット材を使用した場合）



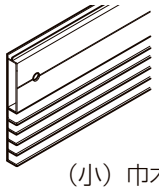
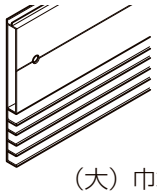


■下枠巾木（小）（別途有償品）・下枠巾木（大）（別途有償品）の取付け

お願い

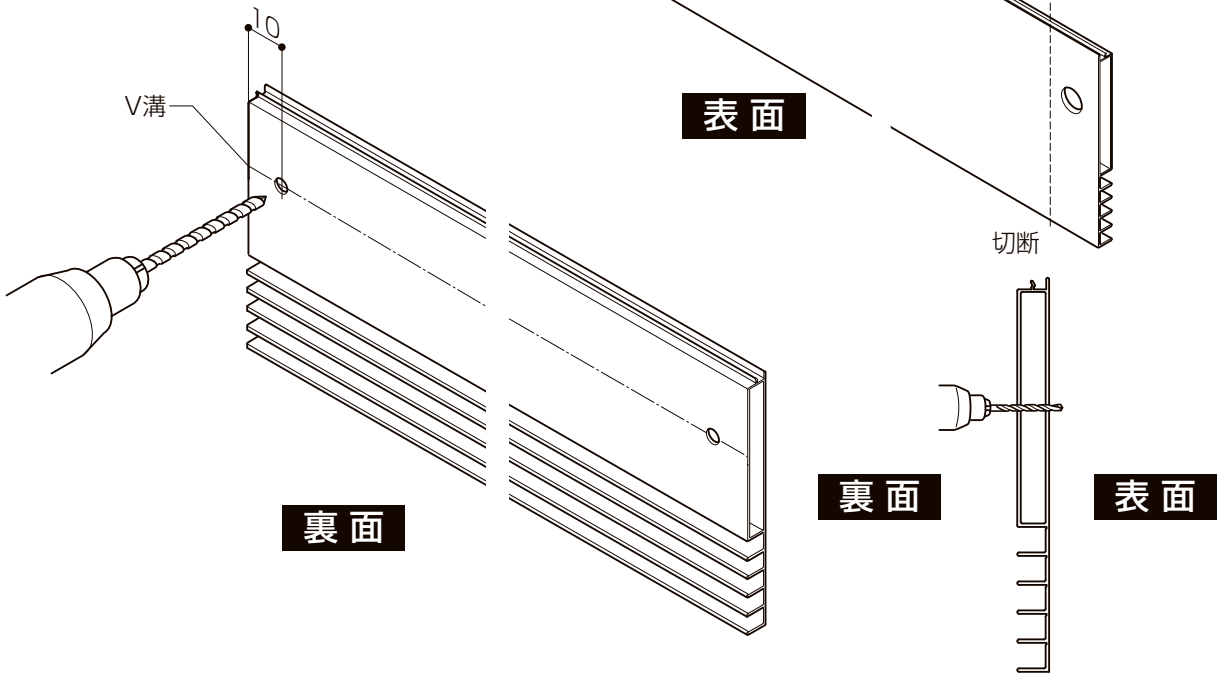
※巾木は、枠→本体吊込み→（下枠補強アングル［下枠用Ｌアングル］（別途有償品））→巾木→外額縁の順番で取付けてください。順序を間違えると取付けができなくなります。

■使用ねじ・部品一覧

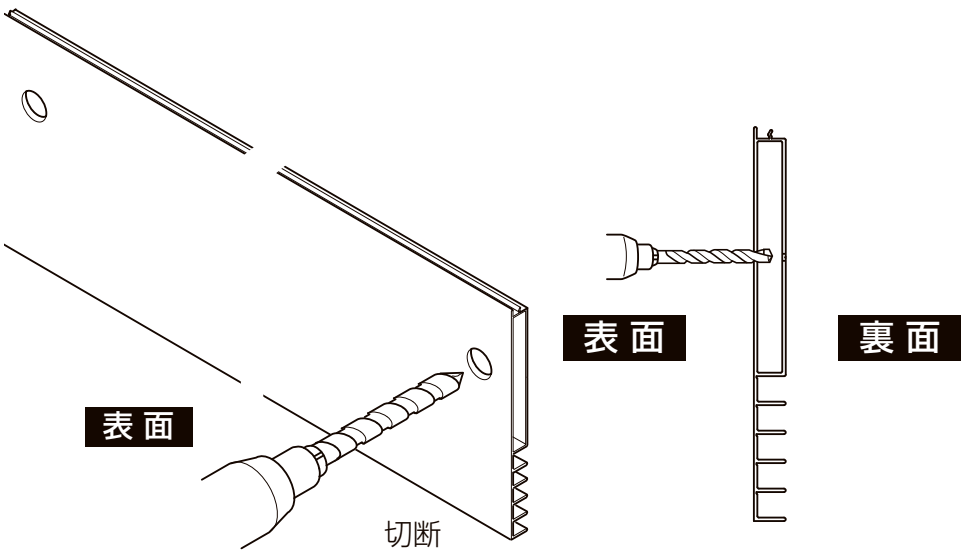
ⓐ	ⓑ	
		
なべセルフタッピンアンカーねじ φ５×70 ２本	（小）巾木 1本	（大）巾木 1本

①巾木を必要な長さに切断してください。切断寸法は、枠Ｗ寸法＋16mmにしてください。
※寸法指定特注の際は切断不要です。

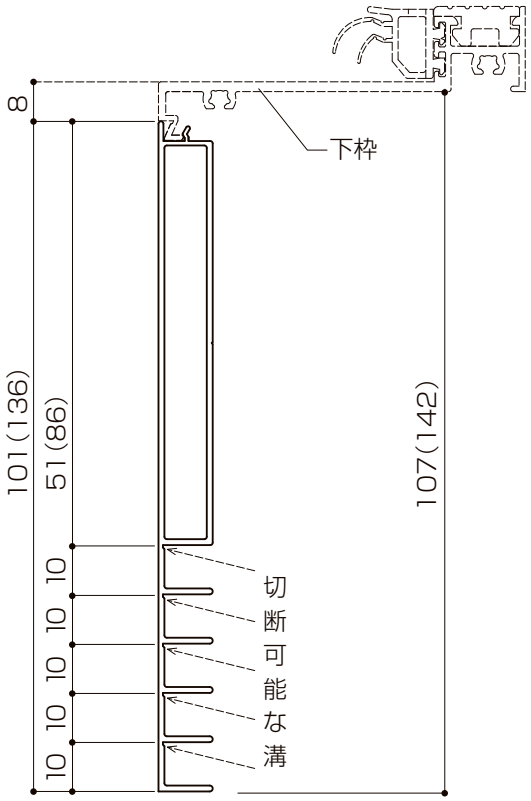
②切断した側にねじ穴を開け直します。巾木の裏面にあるＶ溝にそってφ5.5の下穴を貫通させて開けます。



③先ほど開けたφ5.5の貫通穴の表面側の穴のみ、ドリルでφ10に広げます。

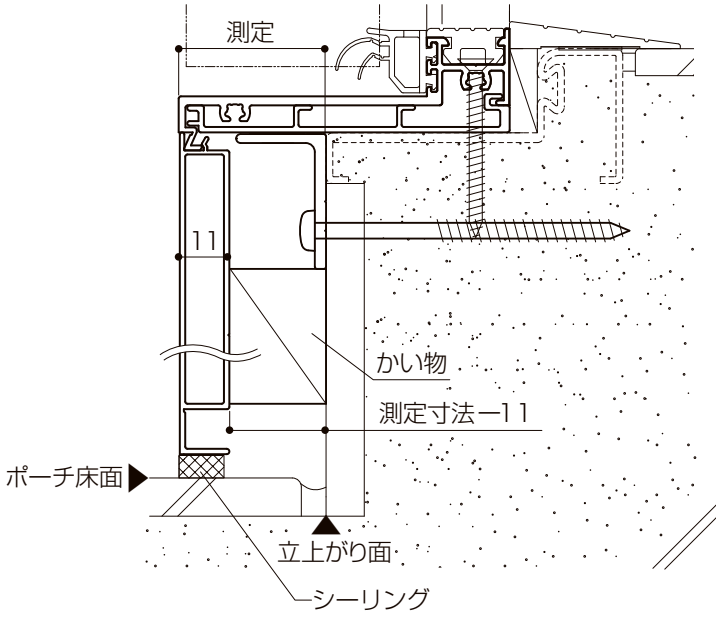


④ポーチ床面と、下枠との段差に合わせて、シーリング代を確保し巾木を溝にそって切断します。



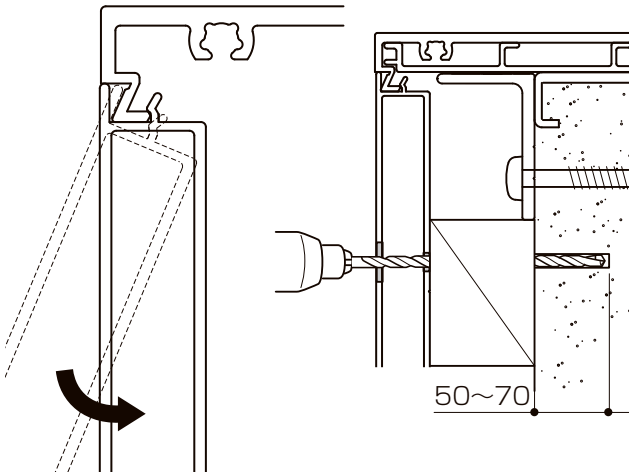
※（　）内寸法は下枠巾木（大）

⑤下枠面と立上がり面との距離を測定し、現場に合うかい物を準備してください。



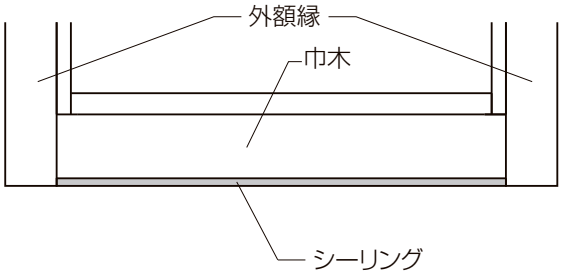
測定した寸法ー 11mm にした厚みのかい物を、巾木と同じ全長寸法で準備してください。

⑥かい物を仮固定し、巾木を下枠と合体させ、ドリルでφ 4.3 の下穴を開けます。



⑦なべセルフタッピンアンカーねじφ 5 × 70 で巾木を固定します。

⑧外額縁を取付け後、シーリングで止水処理を行ってください。

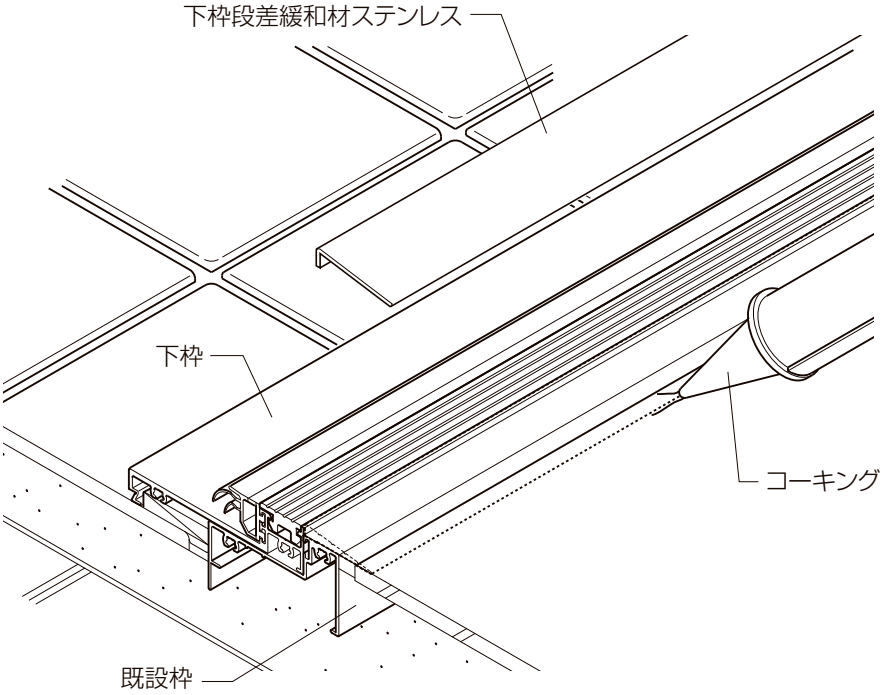


■下枠段差緩和材ステンレス（別途有償品）の取付け

お願い

※この部材は、新枠を取付けた際、室内側の土間の段差が大きい場合に使用してください。

①下枠段差緩和材ステンレスを現場の納まりに合わせて切詰めます。
②既設枠と下枠の段差部分にコーキングをします。
※コーキングは、下枠段差緩和材ステンレスの傾斜に合わせて塗布してください。
③下枠段差緩和材ステンレスをコーキングの上に固定します。



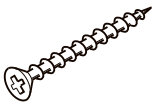
■下枠化粧カバー材（別途有償品）の取付け

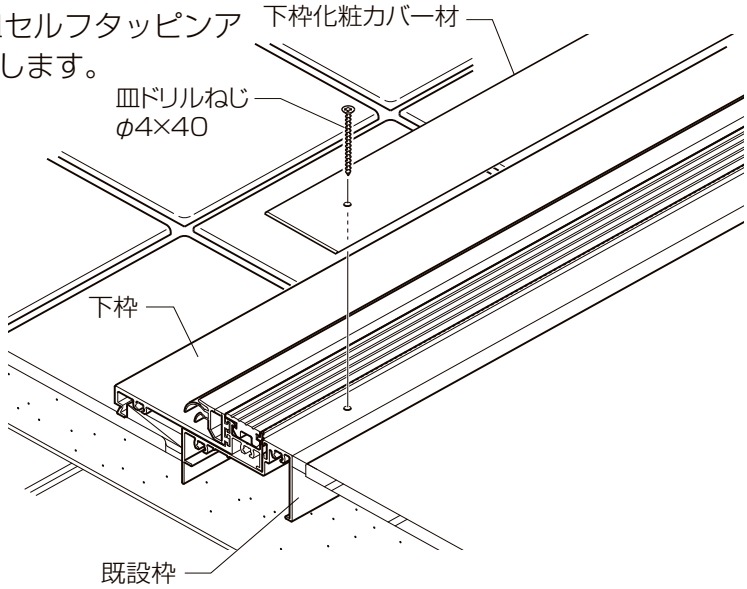
お願い

※この部材は、新枠を取付けた際、既設枠を隠す場合に使用してください。

①新枠に下枠化粧カバー材をつきあてて配置します。納まりに合わせて、下枠化粧カバー材を切断してください。
②下枠化粧カバー材の穴を使い、ねじの長さに合わせた深さで既設枠にφ 3.5 の穴をあけます。
③ⓐ皿ドリルねじφ４× 40 で取付けます。
コンクリートの場合は、ⓑ皿セルフタッピンアンカーねじφ４× 50 で固定します。

■使用ねじ一覧

ⓐ	ⓑ
	
皿ドリルねじ φ４×40	皿セルフタッピンアンカーねじ φ４×50



■下枠段差緩和材（別途有償品）の取付け

お願い

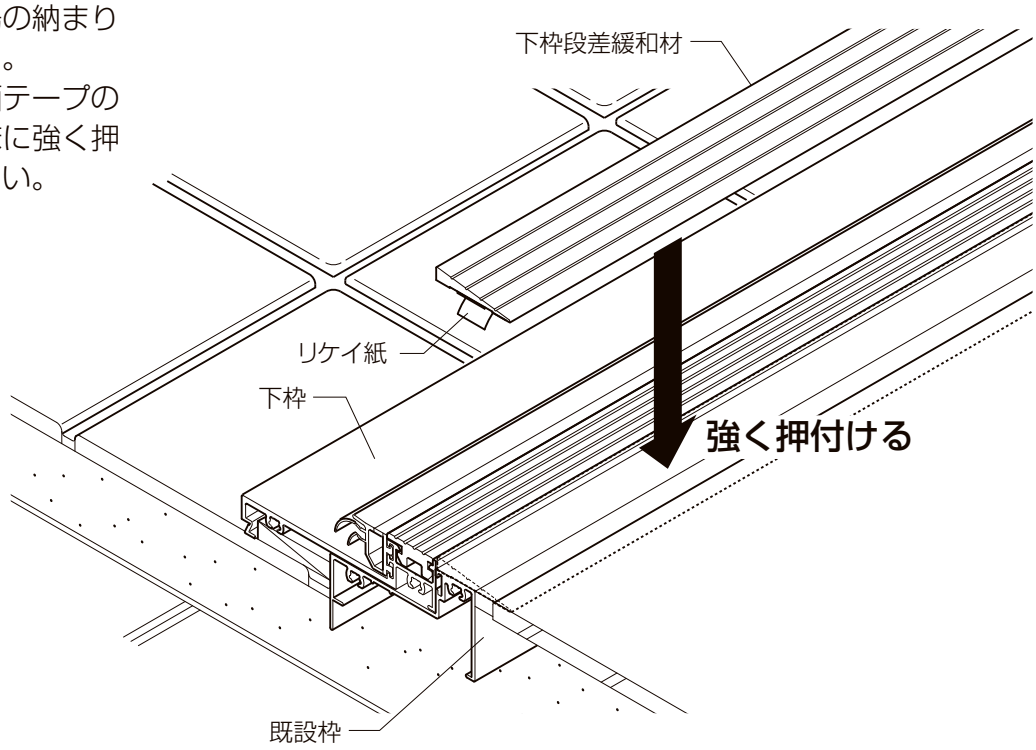
※この部材は、新枠を取付けた際、室内側の土間の段差が大きい場合に使用してください。

⚠注　意

●下枠段差緩和材の両面テープの接着力が低下し、下枠段差緩和材が外れ、思わぬケガをするおそれがありますので、下記事項をお守りください。

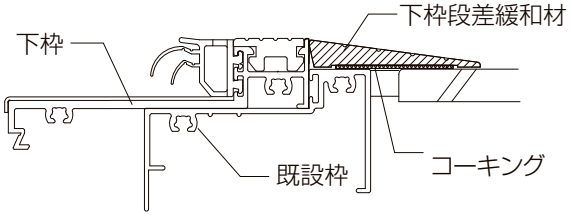
・張直しをしないでください。
・取付け前に床を必ず清掃し、汚れ（泥・砂）・ホコリ・油などを取ってください。
・床に強く押付け、必ず圧着してください。
・接着効果を確保するため、24 時間放置してください。

①下枠段差緩和材を現場の納まりに合わせて切詰めます。
②下枠段差緩和材の両面テープのリケイ紙をはがし、床に強く押付けて圧着してください。



■新枠の下枠と床の段差が大きい時

●段差部分にコーキングし、その上に下枠段差緩和材を固定してください。
その際、下枠段差緩和材の両面テープのリケイ紙ははがしてください。



■袖飾りの取付け

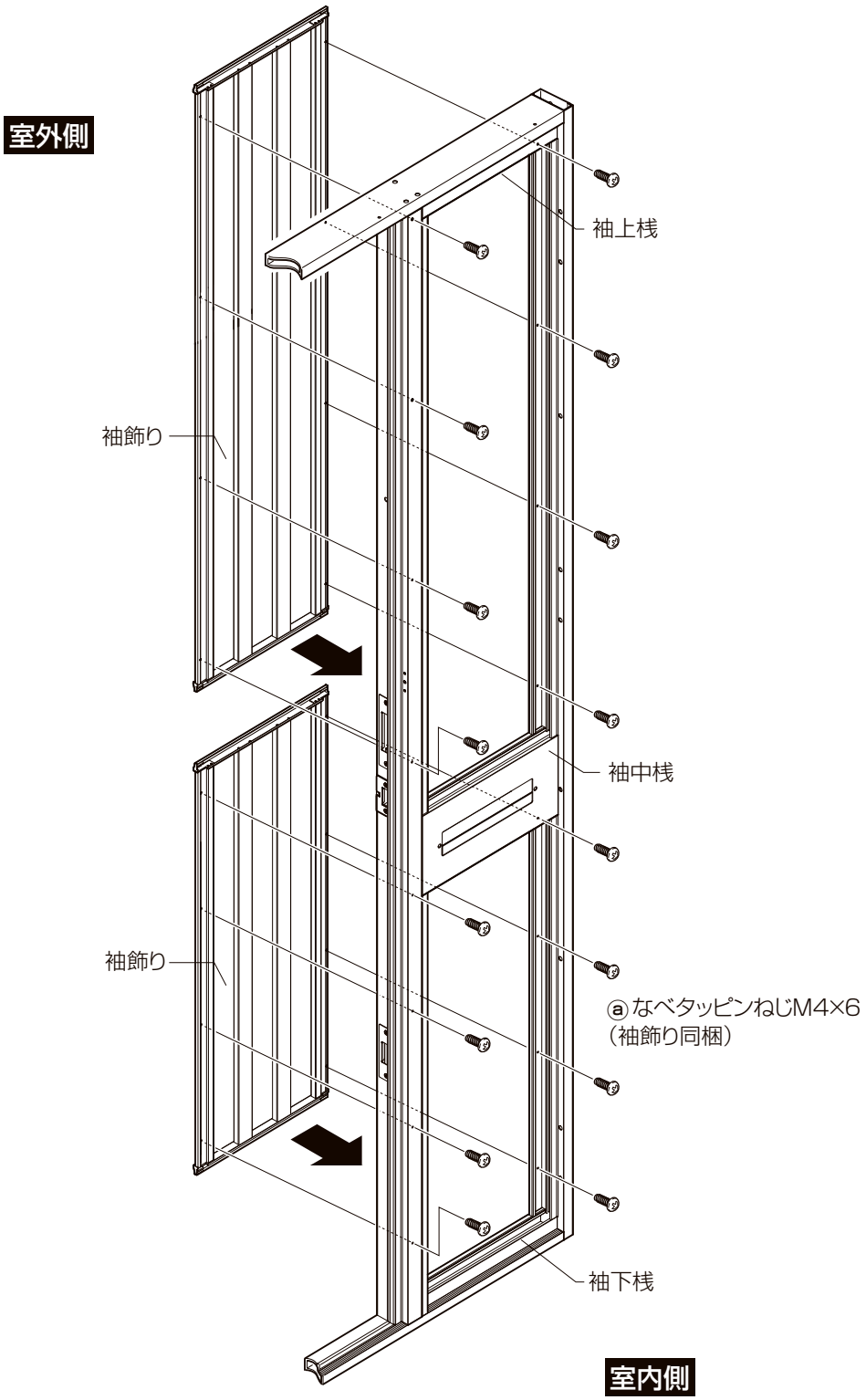
お願い
※袖飾りは、袖ガラスを入れる前に取付けてください。
順序を間違えると取付けができなくなります。

●袖飾りを室外側から差込み、室内側から
なべタッピンねじ M4 × 6 で袖飾りを固
定します。

■使用ねじ一覧

ⓐ

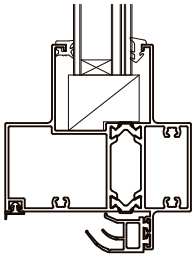
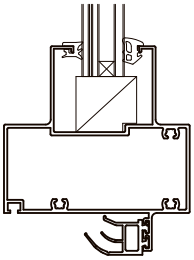
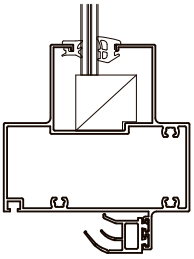
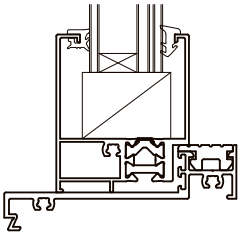
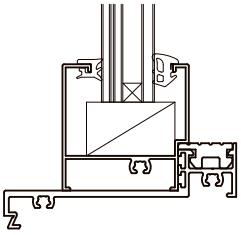
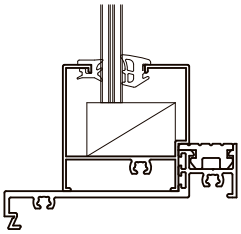
なべタッピンねじ M4×6 16 本

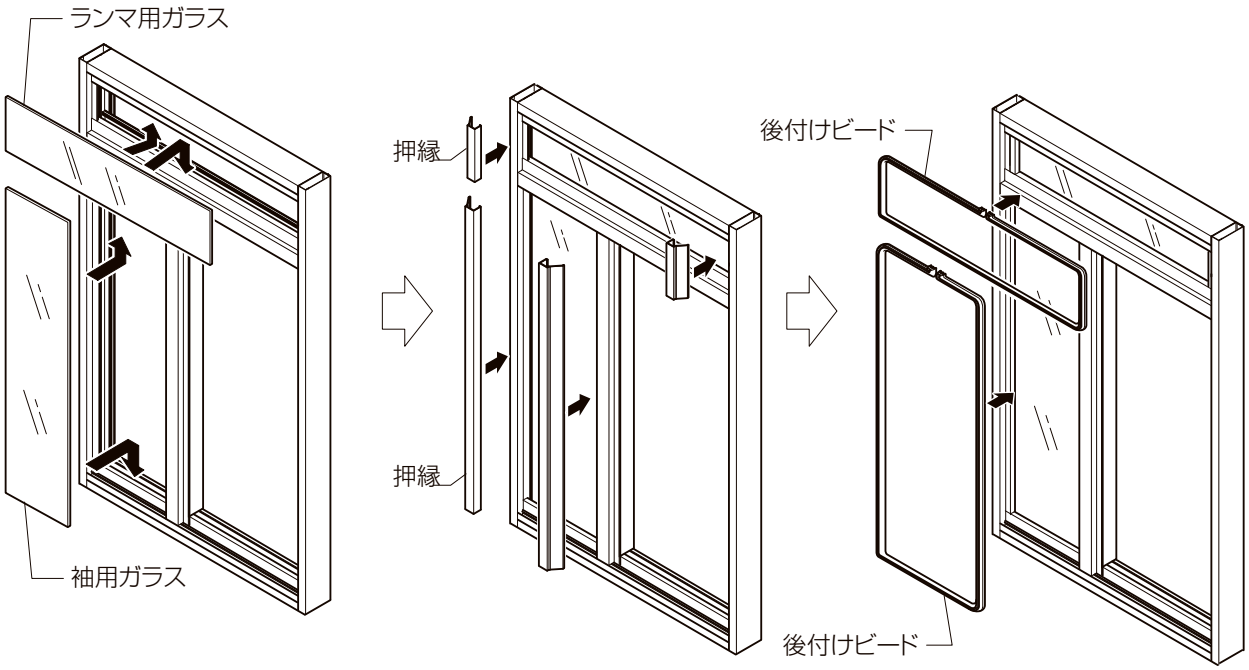


■ランマガラス・袖ガラスの取付け

●ガラスを上枠側からケンドンで入れます。
　押縁を取付け、後付けビード（別途有償品）で固定してください。

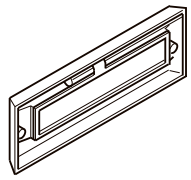
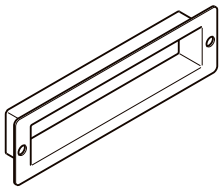
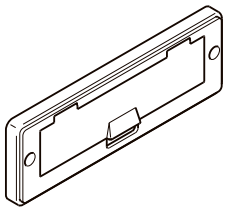
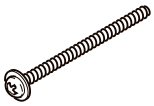
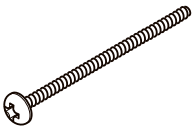
■ガラスライナーの納まり

	k２仕様	k４仕様	アルミ仕様
ランマ			
袖			

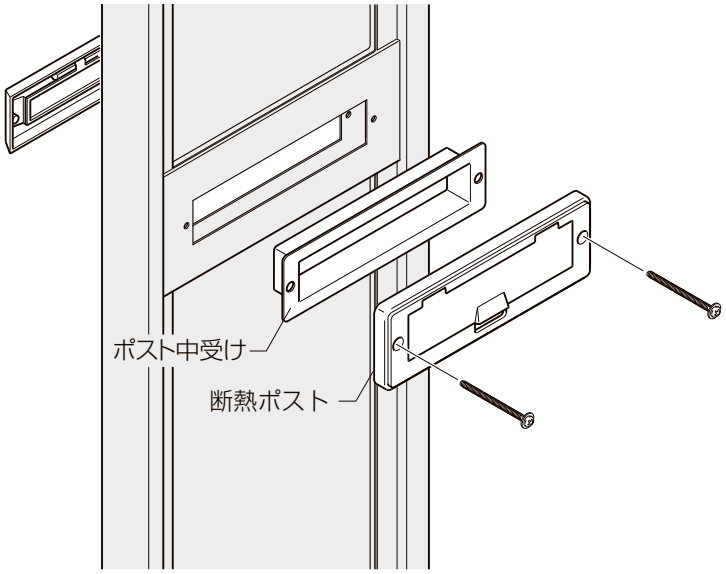


■ポストの取付け（袖付枠ポスト付きのみ）

■使用ねじ・部品一覧

ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ
ポスト差入口	ポスト中受け	断熱ポスト	取付けねじ	取付けねじ
			 なべ座付き小ねじ M5×66 ※ k4、アルミ仕様枠用	 トラス小ねじ M5×70 ※ k2 枠用

①同梱されているポスト差入口・ポスト中受け・断熱ポストを中桟にねじで固定します。



株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00　土・日・祝日 9:00～17:00（ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く）

TEL.0120-126-001　FAX.03-3638-8447

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は
旭トステム外装（株）サービスデスクナビダイヤル　TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00（祝日、年末年始、夏期休暇等を除く）

TEL.0120-413-433　FAX.0120-413-436

https://www.lixil.co.jp/support/

安全に関するご注意
ご使用の前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について
当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

●商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

LIXIL

リフォームドア　リシェント　取付け説明書

2021.4

地球環境のためにLIXILは
業界トップランナーとして
先進的な取組をしていきます。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

https://www.lixil.co.jp/

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトから
ご確認ください。

取説番号 MAM-779E | 事業所コード AXU6 | 2021.4.1 発行

MAM779E